

研究紀要 第28号

「個別最適な学びと、協働的な学び」の 一体的な充実の実現に向けた実践的研究

～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、
ICTの効果的な活用を通して～

3か年継続研究：2年次

令和5年3月 留萌管内教育研究所

研究紀要 第28号

「個別最適な学びと、協働的な学び」の 一体的な充実の実現に向けた実践的研究

～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、
ICTの効果的な活用を通して～

〈3か年継続研究：2年次〉

令和5年3月 留萌管内教育研究所

発刊に当たって

新型コロナウイルス感染症の影響も収まらないまま年度末を迎えようとしていますが、関係各位のお力添えのおかげをもちまして、留萌管内教育研究所研究紀要第28号を発刊できますことに心よりお礼を申し上げます。

今年度は、3か年継続研究「『個別最適な学びと、協働的な学び』の一体的な充実の実現に向けた実践的研究～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～」の2年次にあたります。構築した理論を授業において具体化し検証する、まさに実践の年度でした。

野々村研究員の提案授業を皮切りに、研究協力員である増毛中学校 山形大介 教諭、天塩小学校 坂本千恵 教諭の検証授業を通して、研究理論の具体化が着実に行われたものと考えます。とくに、坂本研究協力員の検証授業では、北海道教育庁留萌教育局義務教育指導班主査 寺田 紳 様にご指導・ご助言をいただくとともに、北部の先生方にも一般参加をいただきました。少人数だったとは言え、育てたい資質・能力を明確にしたICTの活用について、具体的実践を所外に発信できたことは研究所としての大きな成果と考えています。

「ICTを使わなくても授業はできる」という声を聞きます。もちろんその通りです。しかし、それは、「ICTは不必要である」ことを意味しません。我々が育てている子どもたちは、昭和を生きるわけでも、平成を生きるわけでもありません。発達した情報通信技術が社会の基盤となり、その存在が「当たり前」となる令和の時代に、教育も含めた日常的な営みのすべてに渡ってICTが使われるのは当然のことです。モータリゼーションの時代に、馬車や人力車を使う人がいないのと同じです。

また、時代時代に子どもたちに必要な能力が変わっていくのも当然のことです。未来を生きる力は、かつての学力観・能力観に収まるものではありません。よって、学習指導要領がICTの存在や利活用を「前提」とし、これまでは育成が困難だった資質・能力を高めようとするのは時代の必然とも言えるのです。

ICTを活用する能力がすべての教職員にとって必須となることは疑いようがなく、それは遠い未来のことではありません。GIGAスクール構想を契機にそのスタートが切られた今だからこそ、多くの教職員にICTの必要性と利点等、これからの教育における必須のツールであることを知ってもらい、自らの授業観・学力観のアップデートを図っていただきたいと思います。当研究所は、本研究の推進を通して、微力ながらもこれに貢献をしていければと考えています。

結びとなりますが、本研究所の運営に対してご支援を賜りました管内各市町村教育委員会、北海道教育庁留萌教育局、管内小中学校長会・教頭会の皆様、そして本研究の推進を支えてくださいましたすべての方々に感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊に当たってのご挨拶といたします。

令和5年3月

留萌管内教育研究所長 **村 元 隆 一**

目 次

「発刊に当たって」

留萌管内教育研究所長 村 元 隆 一

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	目指す児童生徒像	
4	研究内容	
5	研究計画の概要	
6	研究の全体構造	
7	令和4年度の研究	
II	研究の内容	8
1	研究のねらい	
2	研究の具体	
3	研究の視点	
4	学習指導案の型	
III	研究員の実践	41
1	提案授業	
	○小平町立小平中学校 第3学年 社会科 授業者 野々村 光 史 研究員	
2	検証授業	
	○増毛町立増毛中学校 第1学年 保健体育科 授業者 山 形 大 介 研究協力員	
3	検証授業	
	○天塩町立天塩小学校 第6学年 国語科 授業者 坂 本 千 恵 研究協力員	
IV	研究の成果と課題	53
1	成果と課題	

※ 参考文献リスト

※ 研究協力員・留萌管内教育研究所

あとがき



I 研究の概要



1 研究主題

2 主題設定の理由

3 目指す児童生徒像

4 研究内容

5 研究計画の概要

6 研究の全体構造

7 令和4年度の研究

I 研究の概要

1 研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の学校教育の課題から

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒を、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手にしていくことが求められている。

また、令和時代における学校の「スタンダード」として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう GIGA スクール構想により児童生徒 1 人 1 台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境が整備された。これを最大限生かし、端末を日常的に活用するとともに、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていく必要がある。

さらに、これまでも重視されてきた「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、多様な他者と協働しながら、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」の一体的な充実を通して、児童生徒に「予測困難な時代」を生き抜くための資質・能力を育成していくことが「令和の日本型学校教育」として強く求められている。

(2) これまでの研究の成果と課題

本研究所では、これまで9次に及ぶ共同研究に取り組んできた。前次では『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた実践的研究について成果と課題を明らかにした。

成果として、頭の中にある知識や新しく得た情報を一定の視点や枠組みに従って書き出す「思考ツール」の活用によって自分の考えが可視化されたことや、可視化された思考ツールに他者との学び合いの中での気づきを加筆したり、児童生徒同士の対話に思考ツールを活用したりすることが考えの広がりや深まりへとつながっていたこと、身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが教師の授業改善につながった、などといったことが挙げられた。

一方、課題として、学んだことの意味に気付いたり、新たな学びにつなげたりできるような効果的な振り返りの場を設定すること、児童生徒自らが思考を可視化するために最適な思考ツールを選択するための指導方法などがあげられた。

新たな研究を立ち上げるにあたり、これらの課題の解決と、新しい時代を見据えた学校教育の姿として求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現を、育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと ICT の効果的な活用を通して目指していきたいと考えた。

(3) 留萌管内の教育との関わり

要覧「るもいの教育—令和3年(2021年度)版—」(北海道教育庁留萌教育局)では、令和3年度の管内教育を推進するための重点テーマを「学校・家庭・地域社会が協働を深め、ふるさと未来を担う子どもを育む取組の推進」と設定している。これを具体化するために『社会で生きる力』の育成など、学校、家庭、地域社会との協働の下で、子ども一人ひとりがふるさとへの思いを抱き続け、未来の担い手として活躍することができるよう取り組んでいます。」としており、「社会で生きる力」の育成のために、「○『学びを止めない』教育の推進、○特別支援教育の充実、○新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進」を挙げている。

そこで、本研究でも、『学びを止めない』教育の推進の実現のために、積極的・効果的な ICT の活用を、「特別支援教育の充実」と、「新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進のため」の実現のために、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実の実現ができるよう、研究を推進していく。

3 目指す児童生徒像

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒。

4 研究内容

「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実を実現する学習活動の在り方を検証するために、次の内容について研究する。

研究内容・視点1 ～個別最適な学び～

指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

- (1) 教師の丁寧な見取り(指導と評価の一体化)
- (2) 学習計画(学習の見通し)
- (3) 知識・技能の確実な習得(習得)
- (4) 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用と教科等横断的な学習(活用)

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

- (5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探究的な学び(探究)
- (6) 自身の変容や成長の自覚(学習の振り返り)
- (7) 自己のキャリア形成とのつながり(キャリア形成)

研究内容・視点2 ～協働的な学び～

異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す

- (1) 教師の児童生徒への関わり（子供の学びを支える伴走者としての教師の役割）
- (2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- (3) 課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- (4) 学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流、地域の課題解決を目指す活動など）

5 研究計画の概要

(1) 研究期間

令和3年度から令和5年度までの3か年継続研究

(2) 研究領域

全教科・領域

「国語」「社会」「算数、数学」「理科」「生活」「音楽」「図画工作・美術」
「家庭、技術・家庭」「体育、保健体育」「外国語」「特別の教科 道徳」
「外国語活動」「総合的な学習の時間」「特別活動」

(3) 研究の進め方

- ① 文献や先行実践資料などの調査や、所内の研究員会議や研究協力員との合同研究会議、道研連との共同研究などを通して、理論研究を進める。
- ② 1年次・2年次は、留萌管内教育研究所の研究員と研究協力員、3年次は研究協力員の授業実践を基に理論を検証し、各年次とも研究紀要にまとめる。
- ③ 研究紀要にまとめた内容は、留萌教育局との合同研修会において発表し、研究協議等で明らかにされた成果と課題を基に、研究の深化・発展を図る。

(4) 今年度の計画

	共同研究	道研連共同研究
4月	・年間計画立案	・道研連定期総会
5月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備	・共同研究推進委員会
6月	・今年度の研究に関する理論研究 ・合同研究会議に向けた準備 ・第2回提案授業指導案検討	
7月	・今年度の研究に関する理論研究 ・第3回合同研究会議 ・第2回提案授業（野々村研究員）	・北海道教育研究所連盟夏季研究所員研修会 ・第2回共同研究推進委員会
8月	・第1回検証授業指導案検討	
9月	・第4回合同研究会議 ・第1回検証授業（山形研究協力員）	

10 月		・全国教育研究所連盟研究協議会（北海道大会）兼第 77 回北海道教育研究所連盟研究大会
11 月	・第 5 回合同研究会議 ・第 2 回検証授業（坂本研究員）	・共同研究推進委員会 ・冬季所員研修会
12 月	・研究紀要編集作業	
1 月	・今年度の研究の成果と課題について	
2 月	・第 6 回合同研究会議（今年度の研究の成果と課題について、次年度の研究計画） ・研究紀要編集と校正、入稿	
3 月	・研究紀要第 28 号発刊	

研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～

目指す児童生徒像

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒。

研究内容

一体的な充実

【視点1】 個別最適な学び

指導の個別化

一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

- (1) 教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- (2) 学習計画（学習の見通し）
- (3) 知識・技能の確実な習得（習得）
- (4) 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用と教科等横断的な学習（活用）

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

- (5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）
- (6) 自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- (7) 自己のキャリア形成とのつながり（キャリア形成）

【視点2】 協働的な学び

異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

- (1) 教師の児童生徒へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
- (2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- (3) 課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- (4) 学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流・地域の課題解決を目指す活動など）

学習デザイン（R3年度重点）

- ・育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン
- ・指導と評価の一体化
- ・教科等横断的な学習
- ・児童生徒のキャリア形成

ICTの効果的な活用（R4年度重点）

- ・学校教育の質の向上に向けたICTの活用
- ・ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上
- ・各教科等の指導におけるICTの活用

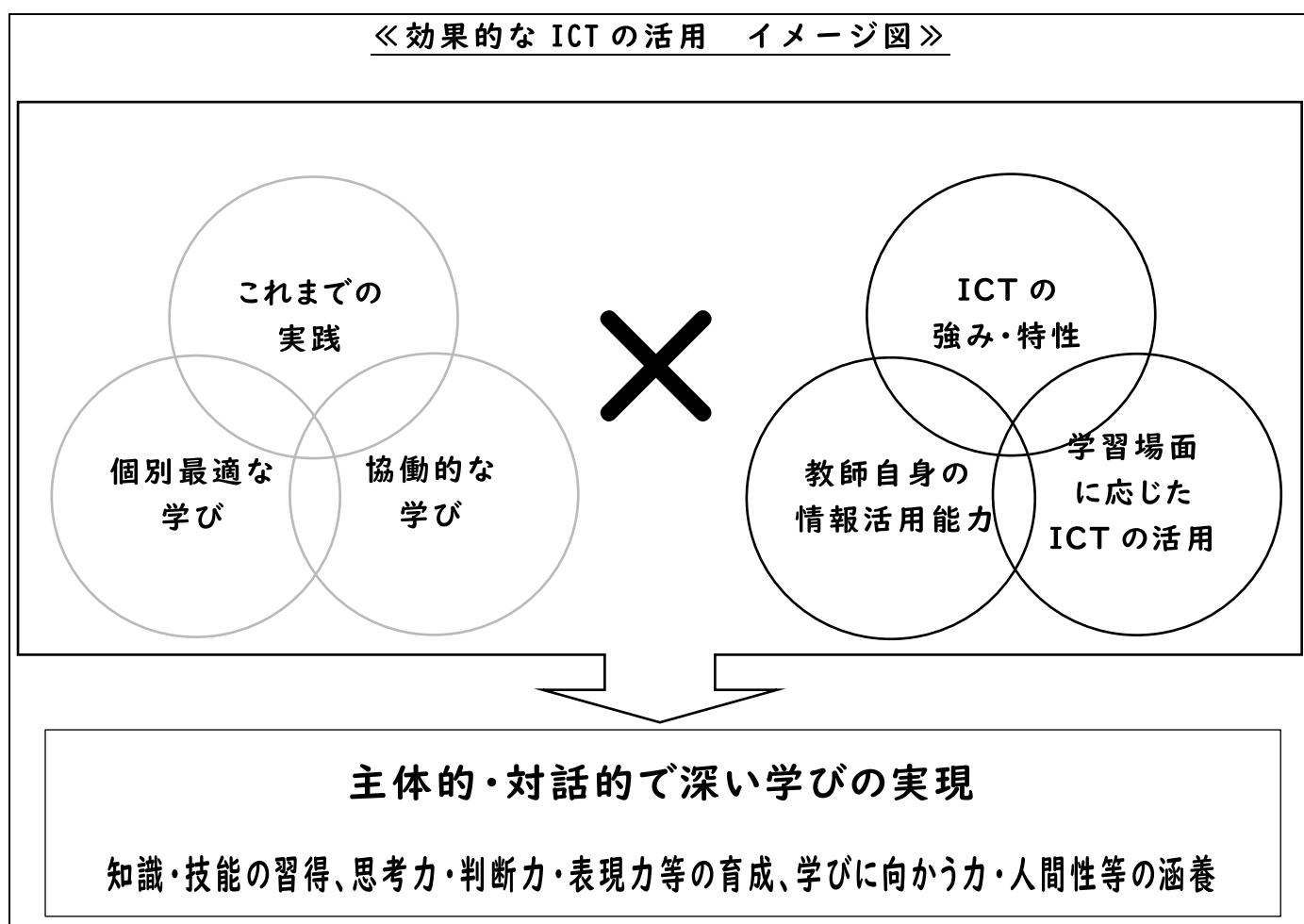
7 令和4年度の研究

【今年度の重点】

ICTの効果的な活用

【効果的なICTの活用の内容】

- 学校教育の質の向上に向けたICTの活用
 - ・ICTの特性や強みを生かしたICTの活用
→これまでの学校教育の実践と最適に生み合わせる
今までの実践 × **ICTの強み・特性**
 - ・児童生徒の情報活用能力の育成
→それぞれの学習で育成する情報活用能力の明確化
→「情報活用能力の育成に係る『3観点8要素』」の活用
- ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上
 - ・教師自身の情報活用能力のメタ認知
→教師のICT指導力の基準表の作成
 - ・情報モラル教育に当たって教師がもつべき知識の明確化
- 各教科等の指導におけるICTの活用
 - ・学習場面に応じたICTの効果的な活用
→学習の目標、学習形態に応じたツールの活用



※ 詳しくはⅡ研究の内容 2研究の具体

II 研究の内容



1 研究のねらい

2 研究の具体

3 研究の視点

4 学習指導案の型

Ⅱ 研究の内容

Ⅰ 研究のねらい

目指す児童生徒像と研究主題について

目指す児童生徒像として

自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる児童生徒

を設定した。この児童生徒像は、学習指導要領前文や答申にも書かれており、我が国の学校教育で育成することが求められる姿である。

そこで本研究では、

「個別最適な学び」により、自分の良さや可能性を自覚することのできる児童生徒を、
「協働的な学び」により、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働しながら困難を乗り越える児童生徒を、そして、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的に充実させることを通して、豊かな人生を切り拓き、持続可能な創り手となる児童生徒（＝自立した学習者）の育成を目指していく。

これらの実現のために、授業改善の方策として、教師とともに行う、育成すべき資質・能力の育成に向けた学習デザインを繰り返しながら、最終的には児童生徒自身で学習をデザインしていくことを目指す、「育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン」と、一人一台の端末が与えられ、学校教育の基礎的なツールとして必要不可欠なものとなった ICT を、これまでの実践と最適に組み合わせしていく「ICT の効果的な活用」の 2 つを授業改善の方策の柱として、副題として設定し、研究主題を次のように決定した。

研究主題

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究
～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～

学習デザインや ICT の活用を繰り返すことで、最終的には、児童生徒が目標に向かって自分で自分の学習をデザインし、ICT を活用しながら学習を進めていく「自立した学習者」の育成を目指していきたい。

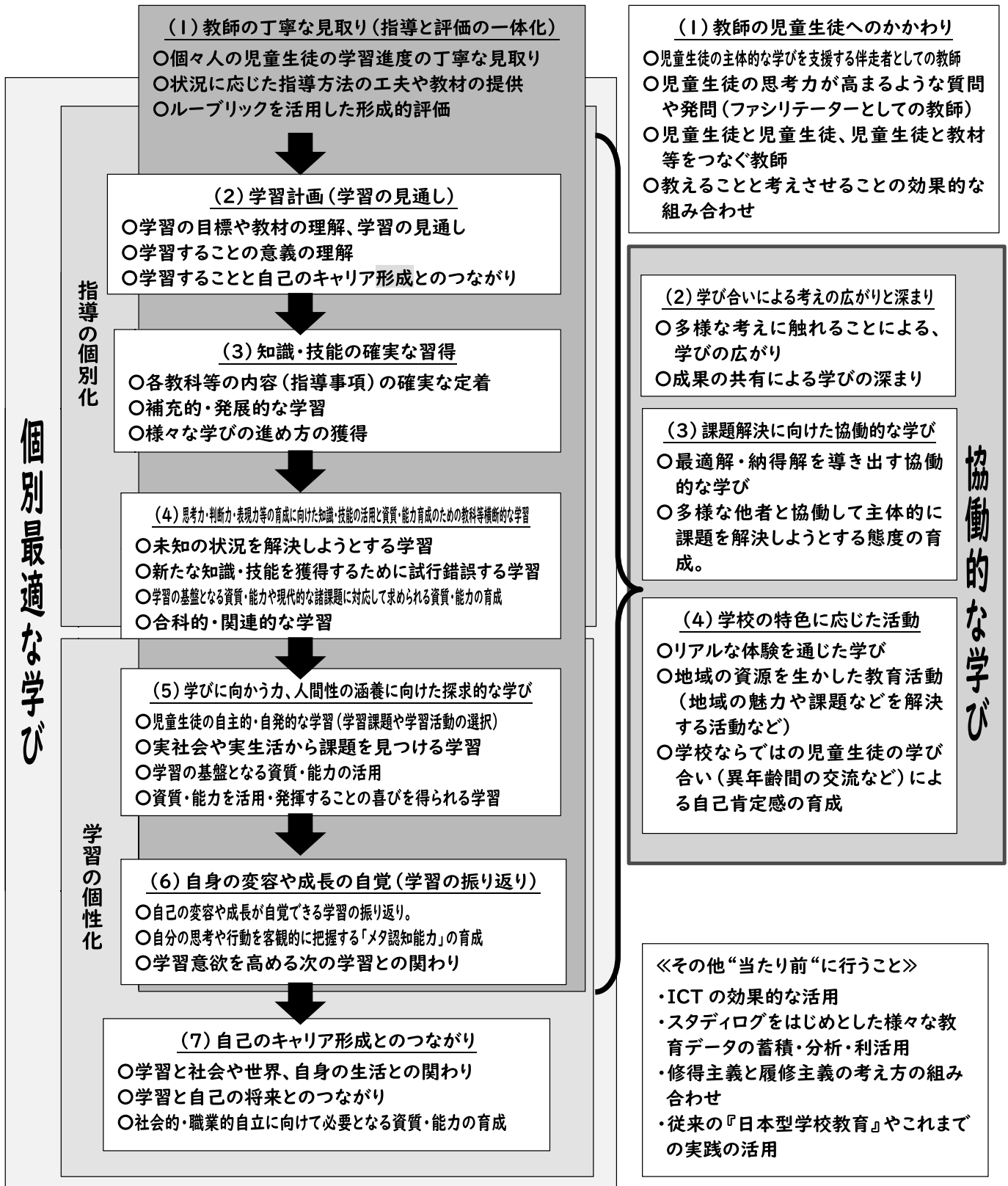
そのためにも、子供一人一人が「それぞれのやり方で、それぞれのスピードで、それぞれの目標へ」と向かっていくような、「子供が主語となる学び」を実現させながら、研究を進めていく。

2 研究の具体

(1) 育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインについて

どのように単元をデザインするか？

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習の実現に向けて、下記のような単元デザインを基本として学習をデザインしていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を児童生徒の実態に応じて適切に位置付けながら、資質・能力の育成を目指していきたい。

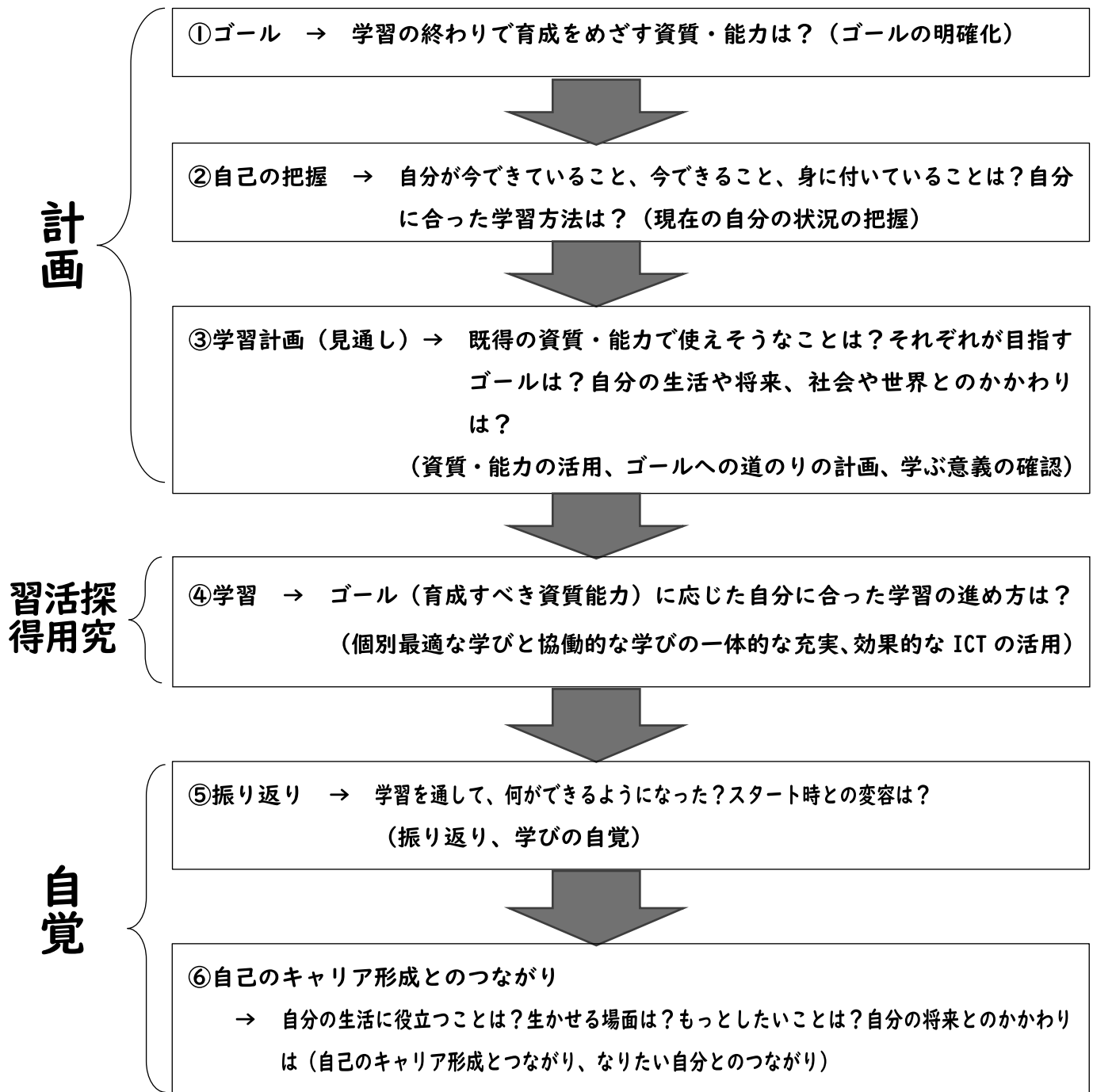


どのような手順で学習をデザインするか？

教師とともに学習デザインを繰り返しながら、最終的には児童生徒自身で学習をデザインできる「自立した学習者」の育成を目指していく。

学習デザインの手順の例を以下に示した。学習を進める中で、教師は児童生徒の伴走者として、児童生徒の主体的な学びを支えられるようにする。

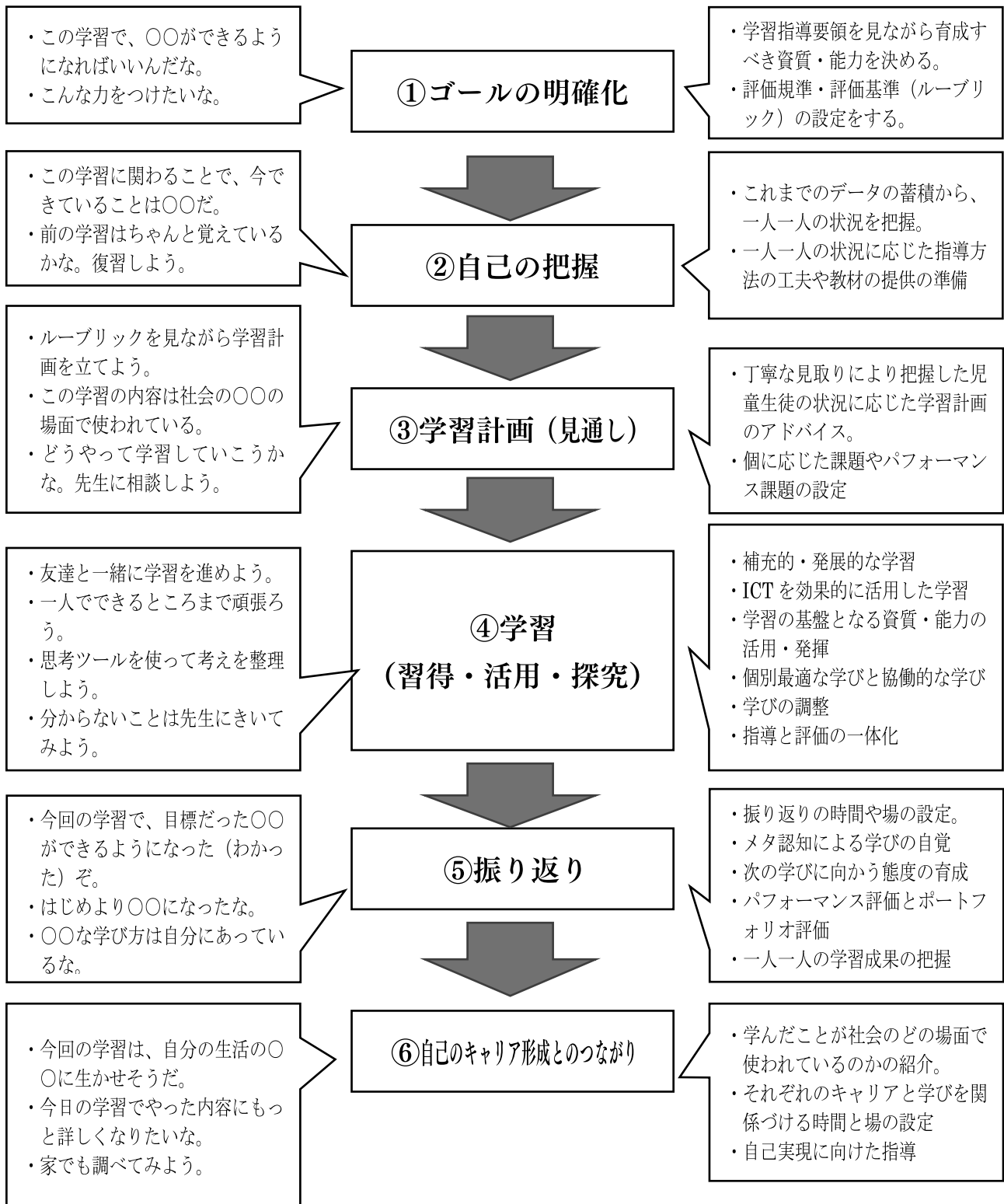
《学習デザインの手順》



学習を進める子供の思考と教師の役割は？

《子供の思考》

《教師の役割》



育成すべき資質・能力とは？

学習指導要領において育成すべき資質・能力は、次の3つに整理されている。

- ①「何を理解しているか・何ができるか」
→生きて働く「知識・技能」の習得
- ②「理解していることを・できることをどう使うか」
→未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
→学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

本研究では、『令和2年度 小学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）』¹「新学習指導要領の理念」を参考にしながらそれぞれの資質・能力を以下のように捉え、研究を進めていく。

○知識・技能（生きる力を支える重要な要素）

- ・知識→他の学習や生活の場面でも活用できる確かな知識
- ・技能→他の学習や生活の場面でも活用できる確かな技能

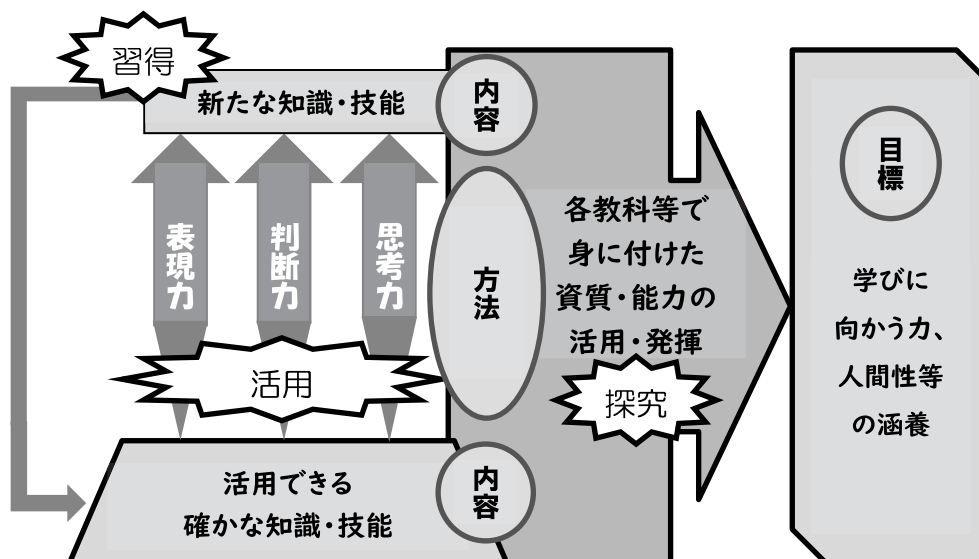
○思考力・判断力・表現力（「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力）

- ・思考力→問題を解決したり、考えを形成したり、新たな価値を創造したりしていくために必要な力
- ・判断力→結論を決定していくために必要な判断や意思決定をする力
- ・表現力→伝える相手や状況に応じて表現する力

○学びに向かう力、人間性等（他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくのかを決定付ける重要な要素）

- ・自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- ・自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力
- ・多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性

また、本研究では、3つの柱をその特色からそれぞれ、「知識・技能」を学習する内容（習得）、「思考力・判断力・表現力等」を学習の方法（活用）、「学びに向かう力、人間性等」を目指すべき姿、目標（探究）と捉え、「習得・活用・探究」という学習のサイクルを回して最終目標である「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指していく。

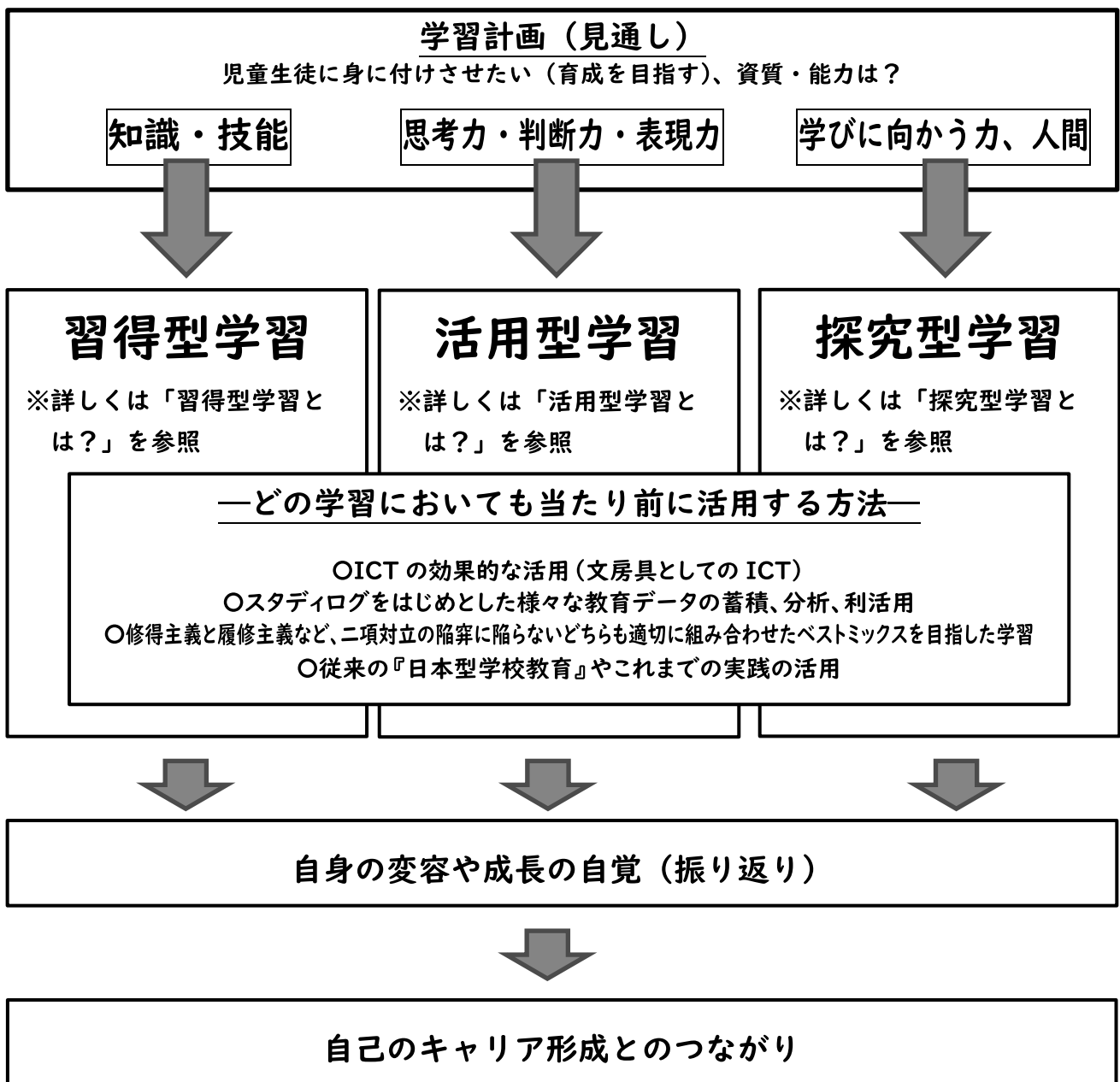


育成すべき資質・能力別の学習デザインとは？

本研究では、単元や学習のまとまり、1単位時間の授業の中で身に付けさせたい（育成を目指す資質・能力）を明確にし、学習方法を児童生徒の実態と照らし合わせながら、それぞれの資質・能力に応じた学習デザインをしていく。

育成を目指す資質・能力によって、それぞれ習得を目指す「知識・技能」であれば「習得型学習」。育成を目指す「思考力・判断力・表現力等」であれば「活用型学習」。涵養を目指す「学びに向かう力、人間性等」であれば「探究型学習」を基本とし、「習得・活用・探究」の学びの過程の中でそれぞれの学びで身に付いた資質・能力を活用・発揮しながら、資質・能力を更に伸ばしたり、新たな資質・能力を身に付けたりしていく。

《育成すべき資質・能力別学習デザインのイメージ図》



習得型学習とは？

「知識・技能」の習得を目指す「習得型学習」では、以下のような学習デザインを行い、全ての児童生徒に各教科等で身に付けるべき知識・技能の確実な定着を目指す。

習得型学習で目指す姿

各教科等の知識・技能を確実に習得し他の学習や生活の場面で活用している姿

学習方法の例

個別学習

個々人に合わせた学習指導。教師が寄り添いながら、児童生徒の実態に応じた指導を行う学習

グループ別学習

ペア学習や、グループ学習など、目標の達成のために設定する小集団での学習

繰り返し学習

ドリル学習やプリントによる復習など。確実に生きてはたらくものになるまで繰り返しを徹底して行う学習

習熟の程度に応じた学習

レディネスの状態や本人の希望、教師の意図などを考慮しながら行う、それぞれの児童生徒のレベルに応じた学習

補充学習

知識・技能を確実に定着させるための「できない」「分からない」を「できる」「分かる」にする学習

発展学習

学習内容の理解を一層深め、広げる学習

各種学習コンテンツを利用した学習

動画視聴やデジタルドリル、学習サイトなど、主に ICT (PC やタブレット等) を活用しながら行う学習

個々の児童生徒に合った多様な方法での学習

思考ツールの活用や各種の学習コンテンツなど、様々な学習方法から、自分に合った学びを発見、活用していく学習

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

ゴール（目指す姿）した自分をイメージする力
ゴールへの見通しをもつ力

活用型学習とは？

「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す「活用型学習」では、以下のような学習デザインを行い、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指す。

活用型学習で目指す姿

身に付けた資質・能力を活用・発揮し、未知の状況にも対応することができる姿

学習方法の例

未知の状況を解決しようとする学習

正解が分からないことや、解決することができていない、あるいは難しい内容の解決を目指す学習

新たな知識・技能を獲得するために試行錯誤する学習

身に付けたい知識・技能を獲得するために行う、それぞれの子供が自己の学習を調整しながら行う学習

複数の教科の目標や内容を組み合わせた教科間の関係性を深めるような合科的学習

単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する学習

複数の教科の目標や内容を組み合わせた教科間の関係性を深めるような関連的な学習

教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して行う学習

各教科で身に付けた知識・技能を統合的に働かせた教科等横断的な学習

各教科の中で身に付けた知識・技能を活用しながら課題解決を目指す学習

数学力、国語力など社会の中で活用できる能力を活用する学習

学習課題と国語、算数・数学で身に付けた、生活に欠かすことの出来ない資質能力との関連について考え、これらの資質・能力を活用しながら、課題解決や資質・能力の定着を目指す学習

育成すべき学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる能力が明確化された学習

どの教科の学習においても重要となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力などの育成を目指す学習

学習内容の重複が回避された学習

他教科で、同じ目標の学習が行われないように、統合できる学習内容は統合しながら行う学習

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

活用する知識・技能を自覚する力
粘り強く学習に取り組もうとする力

探究型学習とは？

「学びに向かう力、人間性」の涵養を目指す「探究型学習」では、以下のような学習デザインを行い、自ら学びに向かう「自立した学習者」に近づけることを目指す。

探究型学習で目指す姿

自ら学びに向かい、自らの学びを調整することができる「自立した学習者」としての姿

学習方法の例

個々の児童生徒の興味関心に応じた、異なる目標に向けた自主的・自発的な学習

自分の興味関心のあることについて、さらなる深化をはかるための自主的な・自発的な学び

学習の基盤となる資質・能力を活用する学習

知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等の育成の中で育まれた学習の基盤となる資質・能力を、活用しながら問題を発見したり、情報を集めたり、言葉で表現したりする学び。

実社会や実生活から課題を見付ける学習

実際の社会や生活と自らの学びをつなげ、課題を見つけるのとともに、身に付けた資質能力との関連づけるような学び

資質・能力を活用、発揮することの喜びを得られる学習

身に付けた資質能力が、実社会や実生活、様々な課題解決につなげられることを自覚することができるような学び

目標達成に向け、粘り強く取り組み、自らの学習を調整しながら進める学習

目標の達成に向けて、簡単にあきらめることなく粘り強く取り組むのと同時に、ひとつのやり方に固執せず、様々な方法を試したり、方法と方法をつなげたりしながら目標の達成を目指す学び

学校の特質や学校や地域の実態に応じた学習・体験活動

それぞれの学校の資源や施設、環境等を生かした、その学校・地域独自の学び・体験活動

各教科で身に付けた資質能力を活用しながら行う総合的な学習の時間や特別活動での学習

各教科等で身に付けた資質能力を、総合的な学習の時間の探究的な学びや学級活動、よりよい学級作り等に生かす、より実践的な活動の中で活用する学び

学習の土台となる力（学習のスタートで全ての児童生徒に備えたい力）

学習の基盤となる資質・能力
自己の学習を調整する能力

学習評価（見取り）の仕方は？

1、学習評価の考え方

- どの観点であっても、指導したものを評価する、指導していないものは評価しない。
- しっかりと児童生徒をみながら（見る（一般的）・観る（観察）・看る（お世話）・診る（診察）・視る（調査））児童生徒の学習改善や教師の指導改善へとつなげていく。
- 学期末や学年末などの事後だけの評価や、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えた評価などではなく、指導に生かす評価を心掛ける。

2、評価すること

児童生徒に一生残ってほしい資質・能力を評価していく。

- 知識・技能 → 生きて働くものとなっているか。概念をもっているか。
 - ・各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得の状況
 - ・他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。
- 思考・判断・表現 → 課題解決へと向かうものとなっているか。
 - ・各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているか。
- 主体的に学習に取り組む態度 → 自分の意志・判断によるものとなっているか。
 - ・知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面（意志）
 - ・粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしている側面（判断）

3、評価規準の作り方



国立教育政策研究所が教科別に作成した「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を参考にする。原則として、学習指導要領の記載事項の文末を「～すること」から「～している」に変換することで、「内容のまとめりごと」の評価規準を作成する。

4、評価の方法

ペーパーテスト、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等、多面的・多角的な評価や、総括的、形成的な評価を行いながら、子供たちの資質・能力がどのように伸びているのかを把握する。

- パフォーマンス評価…知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合する）ことを求めるような評価方法（問題や課題）
- ポートフォリオ評価…ポートフォリオ（学習者の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの）作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価する方法

【各評価方法の例】

	ペーパーテスト・実技テスト	パフォーマンス	ポートフォリオ
知識・技能	事実的な知識・技能 概念的な理解	文章による説明 実験・観察、式やグラフの表現など、知識技能を用いる場面の設定	
思考・判断・表現	思考力を問う問題・実技	論述やレポートの作成・発表 グループでの話し合い 作品の制作や表現等の多様な活動	論述やレポートの作成・発表 パフォーマンス評価の蓄積
主体的に学習に取り組む態度		授業中の発言 自己評価や相互評価	ノートやレポートにおける記述 教師による観察記録

評価のタイミングは？

本研究では、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて指導過程で評価する形成的評価を、ルーブリック評価を取り入れながら行っていく。ルーブリックを用いて学習評価の方針を事前に児童生徒と共有することで学習の見通しをもたせるとともに、学習過程の中で活用することで児童生徒の学習改善や教師の指導改善に、振り返りの場面で活用することで自己の学びの状況の自覚やより高次への学びに向かう学習意欲の向上につなげていく。また、様々な場面で自己評価・相互評価で活用することで、メタ認知能力の向上や自己評価能力の向上を目指していく。

《ルーブリック評価とは》

「ルーブリック」とは絶対評価のための判断基準表のこと。

思考力・判断力・表現力などのペーパーテストだけでは測りきれない資質・能力の評価の妥当性を担保するために、有効な評価方法。特に表現力においては、数値では評価できない子供が作った作品やパフォーマンスなどの評価を求められるため、評価の観点が明確になる。また、子供たちをルーブリックに参画させ、自己評価や相互評価に生かすことで自己評価力を高めることもできる。

《ルーブリックを活用した評価の流れ》

①目標・評価規準の設定

②各教科の目標・評価規準や学級・学校の実態に応じた、児童生徒が「おおむね満足できる=B評価」、「十分満足できる(=A評価)」状況となる基準の設定。

③児童生徒とルーブリックを共有しながら行う学習の見通し

④授業の実践

→ルーブリックを活用した形成的評価（学習過程の評価）

- ・つまずいている児童生徒への補足的指導
- ・「おおむね満足できる」状況の児童生徒への発展的課題の提供・サポート
- ・学習意欲の向上につながる関わり・励まし
- ・児童生徒の自己評価や相互評価による学びの自覚
- ・児童生徒自身による学びを調整に向けた関わり・励まし

⑤ルーブリックを活用した児童生徒の学習の振り返りと、教師によるパフォーマンス評価とポートフォリオ評価

⑥次の学びに向けた学習意欲の喚起と、教師による次の指導に生かす評価と総括として生かす評価の実施

教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力とは？

学習指導要領では、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体で育てていくことを求めている。実際に、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の中で、探求的な学習を進める上で、これらの力は必要不可欠であり、変化の激しい時代を生きる児童生徒にとって必要不可欠な資質・能力であるといえる。

本研究では、学習の基盤となる資質・能力の具体として以下のように設定し、教科等横断的な視点に立ち、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むための学習を単元や学習のまとめ、一単位時間の中に位置付けながら研究を進めていく。また、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力についてはそれぞれの学校の実態に応じて育成していく。

《学習の基盤となる資質・能力》

言語能力	知識・技能	<ol style="list-style-type: none"> 1 国語科の学習を通して育成される「知識及び技能」 →言葉の働きや役割に関する理解。言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解など
	思考力・判断力・表現力等	<ol style="list-style-type: none"> 1 創造的・論理的思考の側面 →情報を多面的・多角的に精査し、構造化する力 2 感性・情緒の側面 →言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 3 他者とのコミュニケーションの側面 →言葉を通じて伝え合う力 →考えを形成し、深める力
	学びに向かう力、人間性等	<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 2 言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げようとする態度 3 集団としての考えを発展・深化させようとする態度 4 体験したことや感じたことを言葉にしたり、それらを交流させたりしながら心を豊かにしようとする態度 5 互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 6 自分の感情をコントロールして学びに向かう態度 7 言語文化の担い手としての自覚
情報活用能力	知識・技能	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 3 情報モラル、情報セキュリティなどについての理解
	思考力・判断力・表現力等	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）
	学びに向かう力、人間性等	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決・探究における情報活用の態度 2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度
問題発見・解決能力	思考力・判断力・表現力等	<ol style="list-style-type: none"> 1 物事の中から、問題を見いだす力 →未知の状況でもその状況と自分との関わりを見つめる力 2 問題を定義する力 →なぜ問題なのか、なぜそのことを学ぶのかを検討する力 3 問題の解決の方向性を決定する力 →既得の知識や技能の活用し、新たな知識や技能を獲得する方法を考える力。 4 解決方法を探して、計画を立てる力 →必要な情報を集め、既存の知識と適切に組み合わせる力 5 結果を予測しながら実行する力 →情報を他者と共有しながら対話や議論等を通じて 6 過程を振り返って次の問題発見・解決につなげていく力 →社会・世界と関わり、より良い人生を送ろうとする力

※情報活用能力の詳細については「情報活用能力の体系表例（IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの）」（文部科学省HP）を参照。

※本研究では、問題発見・解決能力を「知識及び技能を活用して課題を解決する力」とし、資質・能力の3つの柱のうち、「理解していることを・できることをどう使うか」という「思考力・判断力・表現力」を育成するものであると捉えた。

《現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力》

小学校学習指導要領総則編解説では、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として以下のような資質・能力が考えられるとしている。

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力

また、これらの資質・能力を育成するための教育内容として以下のような例示をしている。

教育内容	指導する教科の例（小学校）
伝統や文化に関する教育	国語、社会、音楽、図画工作、家庭、道徳、外国語活動・外国語・総合的な学習の時間、特別活動
主権者に関する教育	社会、道徳、特別活動、家庭
消費者に関する教育	社会、家庭、道徳
法に関する教育	社会、家庭、道徳、特別活動
知的財産に関する教育	国語、社会、音楽、図画工作、道徳
郷土や地域に関する教育	社会、生活、家庭、外国語活動・外国語、国語、音楽、図画工作、総合的な学習の時間、特別活動
海洋に関する教育	社会、特別活動
環境に関する教育	社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間
放射線に関する教育	国語、社会、道徳
生命の尊重に関する教育	理科、生活、道徳、特別活動
心身の健康の保持増進に関する教育	体育、家庭、理科、生活、社会、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
食に関する教育	理科、社会、家庭、体育、道徳、特別活動、生活、総合的な学習の時間、
防災を含む安全に関する教育	体育、道徳、家庭、特別活動、総合的な学習の時間、理科、社会、生活、図画工作

これらの資質・能力を育成するために、児童生徒や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮しながら、学校の特色に応じた教育課程の編成・実施が求められている。

本研究では、各教科に適切に位置付けるのと同時に各学校ならではの体験活動や地域の資源を生かした教育活動、児童生徒の学び合いなどを通じて、育成を図っていく。

自己のキャリア形成との関わりとは？

本研究では、学んだことが自己の生活や将来とどのような関わりがあるのかということを経験者が伝えたり、児童生徒に考えさせたりしながら、学びと自己のキャリア形成の関連を意識させることを通して、次の学習へと向かう学習意欲の向上や、学習の成果をなりたい自分や将来の自分へとつなげていこうとする態度の育成を目指していく。

学習を見通す段階では、教師が児童生徒に学習と社会や「大人の世界」とのつながりについて伝え、学習することが自己の生活やそれぞれの将来とつながっていることを意識させる。単元や学習のまとまりの終末の段階では、学習の成果を振り返るだけでなく、自己のキャリアとのつながりについて考える時間を設け、学習意欲の向上やなりたい自分や自己実現に向かう前向きな態度へとつなげていきたい。

《自己のキャリア形成につなぐ学習の例》

①ゴール（育成すべき資質・能力）の確認。

- ・学習を通して身に付けるべき資質・能力を意識させる。

②教師による学習と生活・社会とのつながりの伝達と児童生徒の学習への意義づけ。

- ・ゴール（育成すべき資質・能力）と生活や社会とのつながりについて伝える。
- ・児童・生徒自身が自己の将来とのつながりについて考える。

③授業の実践

④学習したことと、自己の生活・将来との関連付け

- ・学習を自分の生活に生かせる場面を想像する。
- ・学習したことが使われている「大人の世界」を想像する。
- ・今回の学習が次の学習や他の学習のどんな場面につなげられるかを考える。
- ・もっと深く知りたいことについて考える。
- ・学習したこととなりたい自分との関わりについて考える。
- ・自分の将来とのつながりについて考える。

⑤教師の対話的な関わり

- ・児童生徒が自覚するまでに至っていない成長や変容に気付いて指摘したり、一人一人が自らの成長を肯定的に認識できるように働きかけたりする。

(2) ICT の効果的な活用について

学校教育の質の向上に向けた ICT の活用について

答申では、ICT の活用について

- 従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成や、他の学校・地域や海外との交流など今までできなかった学習活動の実施、家庭など学校外での学びの充実などにも ICT の活用は有効である。
- 端末を日常的に活用するとともに、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）など、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要
- 児童生徒が ICT を日常的に活用することにより、自らの学習を調整しながら学んでいくことができるようになるとともに、予想しなかったような形で児童生徒の可能性が引き出される可能性があることにも着目する必要がある。
- 特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、さらには個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等に、ICT のもつ特性を最大限活用していくことが重要である。
- その上で、ICT の活用が、従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成に効果的であることや、特に知識の習得に関して今までの教育では適応的でなかった児童生徒の一部に効果を発揮すること、学校外での学びにも活用できること、特別な支援を要する児童生徒にとっては ICT の活用が、情報をやり取りし、将来の社会参画を促進し、生涯にわたって生活の質を大きく向上させることを考慮することが重要である。
- 学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを蓄積・分析・利活用することにより、児童生徒自身の振り返りにつながる学習成果の可視化がなされるほか、教師に対しては個々の児童生徒の学習状況が情報集約されて提供され、これらのデータをもとにしたきめ細かい指導や学習評価が可能になる。
- また、一人一人の児童生徒の状況を多面的に確認し、学習指導、生徒指導、学級経営、学校運営など教育活動の各場面において、一人一人の力を最大限引き出すためのきめ細かな支援が可能となる。

とあり、今後の学校教育の様々な課題を解決し、教育の向上につなげるために学校教育の基礎的なツールとして ICT は必要不可欠なものであり、様々な可能性があることが書かれている。

一方、注意点として

- なお、ICT はこれからの学校教育には必要不可欠なものであり、基盤的なツールとして最大限活用していく必要はあるが、その活用自体が目的でないことに留意が必要である。
- これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要。その際、PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要。
- その際、1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICT の活用が特別なことではなく「当たり前」となるようにするとともに、ICT により現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。
- また、児童生徒の健康面への影響にも留意する必要がある。

とあり、ICT を活用すること自体を目的としないことや、これまでの実践と ICT を最適に組み合わせることで、PDCA サイクルを意識すること等、児童生徒が ICT を“文房具”として“当たり前”に活用することでどのような効果が期待できるのかなどといった、ICT を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことの重要性についても健康面の影響とともに書かれている。

そこで、本研究では、ICT の特性や強みを生かした ICT の活用と、児童生徒の情報活用能力の育成を通して学校教育の質の向上へとつなげていきたい。

ICT の特性や強みを生かした ICT の活用とは？

『初等教育資料 令和3年12月号』の中で、ICT 特性・強みには次の3点が考えられるとしている。

一点目は多量で、大量の情報の取り扱いができ、容易に試行錯誤ができることである。たとえば、web ブラウザによるインターネット検索等によって情報を収集したり、表計算ソフトによるデータ等の整理・分析やグラフ作成などを容易に行ったりすることが可能となる。

二点目は時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化を行えることである。写真・動画の撮影・保存によって、学習過程を可視化し学習の振り返りに生かすことや、クラス管理ソフトを活用した児童生徒のつまずきや伸びについての教師の見取りなど、「個に応じた指導」の充実を行うことができる。

三点目は空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）ができることである。ウェブ会議、ファイル共有等による家庭、他の学校・地域、あるいは、海外との交流といった距離が離れた場をつないだ学習や、他者との意見共有、比較検討、合意形成や、アイディアの創出、発表資料等の協働制作が可能となる。

このような教育・学習における ICT の特性・強みを生かすことで、従来はなかなか伸ばせなかった情報活用能力等の資質・能力の育成や、今までの学習方法では困難が見られた子供への学習効果の発揮、そして今までできなかった学習活動の実施が可能となる。

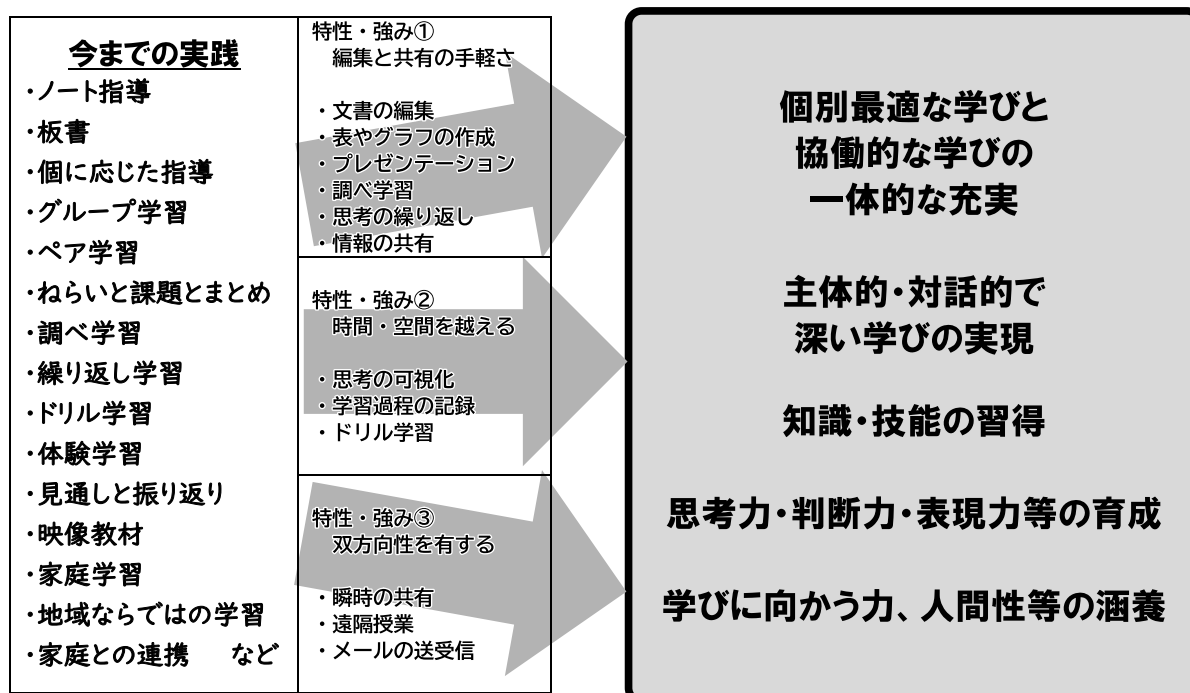
また、『教育の情報化に関する手引(令和元年12月 文部科学省)』にも次のような記述がある。

「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ(平成28年7月28日)によると、教科等の指導における ICT 活用の特性・強みは、

- ①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易であること。
- ②時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること
- ③距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること

といった3つに整理されるが、この特性・強みにより、①については文書の編集、表、グラフの作成、プレゼンテーション、調べ学習、思考の繰り返し、情報共有を、②については思考の可視化、学習過程の記録、ドリル学習を、③については瞬時の共有、遠隔授業、メール送受信等を可能としている。このような ICT の特性・強みを、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげることも期待される。

本研究では、「何のために ICT を活用するのか。」「その場面で ICT を活用することでどんな効果が得られるのか」といった ICT 活用のねらいを明確にした上で今までの実践と ICT の強み・特性を生かした ICT の活用のベストミックスを目指しながら、研究を進めていく。



児童生徒の情報活用能力の向上とは？

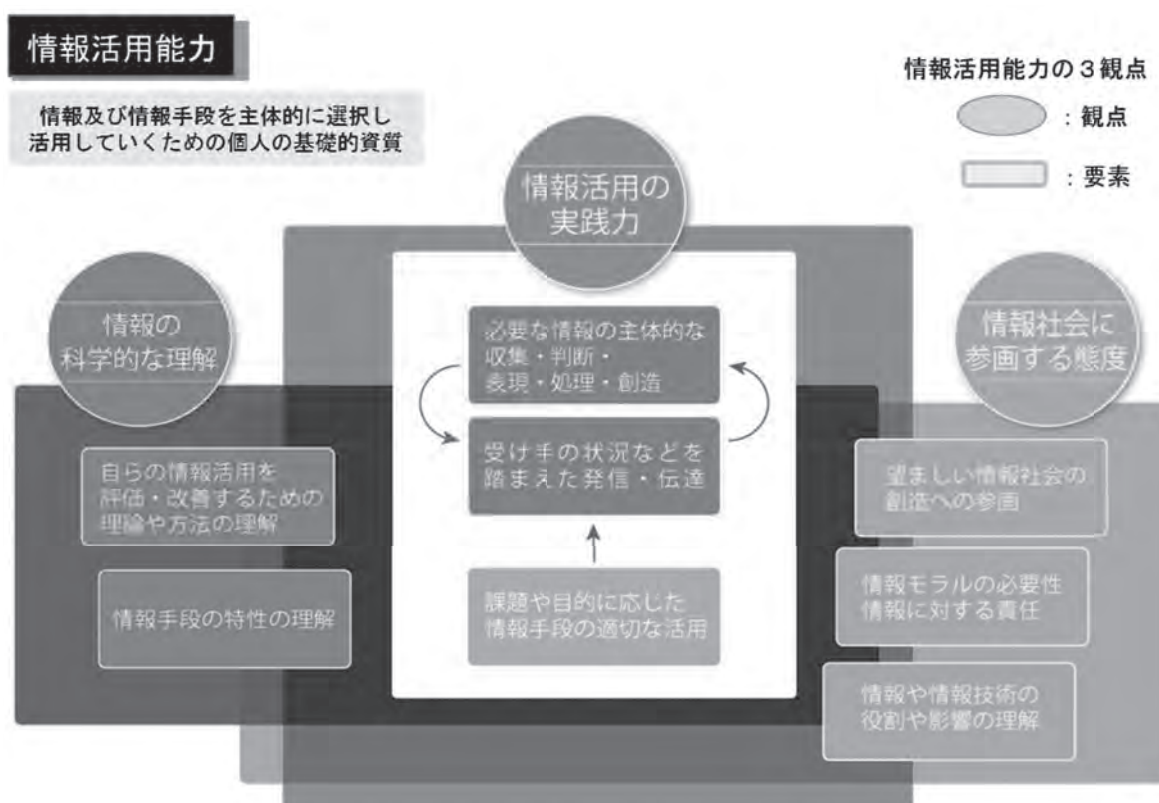
学習指導要領の総則では、小・中学校ともに、「情報活用能力」を言語能力等と同様に、学習の基盤となる資質・能力として明確に位置付けている。

本研究では、前述の『教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力とは？』の中にある、学習の基盤となる資質・能力としての「情報活用能力」に加え、以前から情報教育で育む『情報活用能力』の目標として設定されている「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの目標と、さらに、この3つの目標を「8要素」に整理した、「情報活用能力の育成に係る「3観点8要素」」の指導も適切に行いながら、「効果的な ICT の活用」の充実を目指していく。

そもそも情報活用能力とはどのような能力なのかという点、『小学校学習指導要領解説 総則編』において、「世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、情報および情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりして行くために必要な資質・能力」としている。

また、情報活用能力を具体的に捉えると、「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。」

これらの能力を育成するための目標として設定されているのが、3観点8要素であり、効果的に育成することが求められている。



文部科学省「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」より

これらは、それぞれ独立的に扱うのではなく、相互に関連付け、発達段階や教科等の学習とも関連付けて効果的に育成することが重要である。

本研究では、効果的に ICT を活用するために必要不可欠である、情報活用能力を確実に育てていくために、各教科等の特質に応じた適切な学習活動の充実を図る。そして、身に付けた情報活用能力を様々な場面で活用・発揮させながら、児童が手段として学習や日常生活に活用・発揮できることを目指す。 総則 P 8 4

ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上について

答申には、ICT の活用による効果について、

- 個々の児童生徒の学習状況を教師が一元的に把握できる中で、それに基づき特別な支援が必要な者に対する個別支援が充実され、多様な児童生徒がお互いを理解しながら共に学び、特定分野に特異な才能のある児童生徒が、その才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会にアクセスすることができる。
- 新たな ICT 環境や先端技術を効果的に活用することにより、以下のようなことに寄与することが可能になると考えられる。
 - ・新学習指導要領の着実な実施
 - ・学びにおける時間・距離などの制約を取り払うこと
 - ・すべての顔どもたちの可能性を引き出す、個別に最適な学びや支援
 - ・可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成
 - ・学校における働き方改革の推進
 - ・災害や感染症等の発生等による学校の臨時休業等の緊急時における教育活動の継続

とあり、特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を ICT の活用と少人数指導を両輪として行いながら、全ての児童生徒の可能性を引き出す教育の実現を目指している。

また、教師の役割として、

- 児童生徒が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるよう環境を整え、授業をデザインしていくことが重要である。
- 児童生徒にプログラミング的思考情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用能力を身に付けさせるための ICT 活用指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用など、教師のデータリテラシーの向上に向けた教育の充実を図っていく必要がある。
- ICT を“すぐにでも”“どの教科等でも”“誰でも”活用できる環境を整え、日常的に活用することにより、児童生徒が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくべきである。
- 教師による対面指導や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICT も活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することが求められる。
- 個々の児童生徒の知識・技能等に関する学習計画及び学習履歴（スタディ・ログ）等の ICT を活用した PDCA サイクルの改善を図ることや、進学や転学等の際にも学校間で児童生徒のデータの引継ぎを円滑に行うことなどにより、全ての子供たちの可能性を引き出すよう、個々の状況に応じたきめ細かい指導や学習評価の充実や、学習の改善を図ることが必要である。
- また、ICT を活用し、現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。

とあり、教師には ICT 活用指導力やデータリテラシーの向上、指導ノウハウの収集・分析など、教師自身の資質能力の向上や、ICT を学習に積極的、効果的に活用することが求められている。

そこで、本研究では、教師の資質・能力の向上のために、教師の ICT 活用指導力の向上に向けて、教師自身が自分自身の情報活用能力をメタ認知できるような基準表の作成と、情報モラル教育に当たって教師がもつべき知識の明確化を通して、教師自身の ICT に関する資質・能力の向上へとつなげたい。

教師の ICT 活用指導力の基準表とは？

教師の ICT 活用指導力の向上のためには、児童生徒同様、自分自身をメタ認知することが不可欠である。そこで、『教員の ICT 活用指導力チェック表』を活用し、それぞれの項目についてより詳しく設定した基準表を作成し、自身の状況をメタ認知するとともに、自分の弱い部分を研修で勉強したり、文部科学省が設置した「StuDX Style」を活用したりするなどしながら、それぞれの ICT 活用指導力の向上へとつなげたい。

	チェックリスト	できる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力					
A 1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	例：授業において、コンピュータやインターネットの活用場면을計画して実行することができる。	他の教員の力を借りれば、各項目の『できる』ができる。	常に他の教員の力を借りることができれば各項目の『できる』ができる。	『できる』項目にかかれていないことがほとんど理解できない。
A 2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットを利用する。	例：インターネットを使って教材研究をしたり、校務分掌に必要な情報を集めたりすることができる。			
A 3	授業に必要なプリントや掲示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	例：授業に必要なプリントやプレゼンテーション資料を作成することができる。			
A 4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	例：コンピュータやデジタルカメラ等で、児童生徒の作品を記録したり、テストの集計処理に活用したりすることができる。			
B 授業に ICT を活用して指導する能力					
B 1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	例：教科書等に記載している写真などの提示装置（電子黒板・大型テレビ・プロジェクタ等）を活用して提示することができる。	手引き等を見たり、他の教員の力を借りたりすれば、各項目の『できる』ができる。	常に他の教員の力を借りることができれば各項目の『できる』ができる。	『できる』項目にかかれていないことがほとんど理解できない。
B 2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	例：デジタルカメラで撮影した作品等や、児童生徒の意見等をまとめた資料を、提示装置を活用して提示することができる。			
B 3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習者用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒 1 人 1 人の理解・習熟に応じた課題などに取り組ませる。	例：作業手運を静止画や動画で提示したり、学習者用ソフトウェアを活用して課題に取り組ませたりすることができる。			
B 4	グループで話し合ったり考えをまとめたり、協働してレポート資料・作品などを制作したりするなどの学習の際にコンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	例：レポート等の作成の際にワープロソフトを活用させたり、発表の際にプレゼンテーションソフトを活用させたりすることができる。			

C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力					
C 1	学習活動に必要なコンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル操作など)を児童生徒が身に付けることができるようにする。	例:文字入力の仕方やファイルの保存の仕方を指導することができる。			
C 2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を整理したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	例:検索サイトを使った情報収集の仕方を指導することができる。	他の教員の力を借りれば、各項目の『できる』ができる。	常に他の教員の力を借りることができれば各項目の『できる』ができる。	『できる』項目にかかれています。ほとんど理解できない。
C 3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるよう指導する。	例:ワープロソフトを活用して調べたことを整理したりプレゼンテーションソフトを活用したりして、学習したことをスライドにまとめるよう指導することができる。			
C 4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	例:提示装置に提示された情報をもとに、話し合いをするよう指導したりグループで端末の画面を見ながら考えを共有したりするよう指導することができる。			
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力					
D 1	児童生徒が情報社会への参画にあたって、自らの行動に責任をもち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	例:著作権等の権利や、写真や動画を送るときには注意が必要であることなどについて指導することができる。	手引き等を見たり、他の教員の力を借りたりすれば、各項目の『できる』ができる。	常に他の教員の力を借りることができれば各項目の『できる』ができる。	『できる』項目にかかれています。ほとんど理解できない。
D 2	児童生徒がインターネットを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導したりする。	例:インターネットを利用する際には犯罪の被害者や加害者にもなることがあることや、インターネットを使いすぎると健康面に悪影響があることを指導することができる。			
D 3	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	例:パスワードの管理、ソフトの更新やウイルス対策ソフトの使用等のセキュリティの大切さを指導することができる。			
D 4	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	例:コンピュータやインターネットを活用した授業を行い、児童生徒がそれらを活用しようという意欲を高めることができる。			

情報モラル教育に当たって教師がもつべき知識とは？

「教育の情報化に関する手引」において、情報モラル教育に当たり教師が持つべき知識として以下の3つの知識を紹介している。

(1) インターネット上で起きていることに関する知識

インターネット上で起きていることに関する知識は、新聞やニュースなどから児童生徒が事件に巻き込まれたり関わったりした事例も把握しておく必要があるとともに、自分の学校の児童生徒がスマートフォンやタブレットを通じてインターネットをどのように使っているかについて調査することが重要である。教師がこうしたインターネット上の危険性を知らなければ、児童生徒を守ることはできず、現状をしっかりと把握することが情報モラル指導の第一歩であることを意志すべきである。なお、学校において教師間でそうした情報が十分に共有されることが重要である。例えば、総務省の「インターネットトラブル事例集」には、「メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間はずれ」「なりすまし投稿による誹謗中傷」「フリマサービスやオンラインショッピングでのトラブル」「不正アプリやウイルスによる個人情報漏洩」「ワンクリック詐欺やウイルスなどによる不当請求」などの内容が掲載されており、教師は常に最新の事例を把握しておく必要がある。

(2) 法令の知識

教師が関連する法令の知識をもって児童生徒の指導にあたる必要がある。SNS上で他人の個人情報を勝手に公開したり、誹謗中傷で相手の名誉を傷つけたり、著作権処理をせずに音楽や画像ファイルを掲載したりすることなどが法に触れる可能性があることを教師がしっかりと認識しておくべきである。

なお、法令やそれに関する解説については、その所管する官庁などのホームページで情報を入手することができる。

- | | |
|--------------------|------------------|
| ○刑法：法務省 ※脅迫、名誉毀損 等 | ○特許法：特許庁 |
| ○プロバイダ責任制限法：総務省 | ○電子契約法：経済産業省 |
| ○出会い系サイト規制法：警察庁 | ○特定商取引法：消費者庁 |
| ○児童買春・児童ポルノ禁止法：警察庁 | ○リベンジポルノ防止法：警察庁 |
| ○不正アクセス禁止法：経済産業省 | ○青少年インターネット環境整備法 |
| ○迷惑メール防止法：総務省 | ○個人情報保護に係る法令 |
| ○著作権法：文化庁 | ○青少年健全育成条例 等 |

(3) 問題への対処に関する知識

情報モラル教育は問題発生予防的な側面を主に担うものであるが、教師は問題が起きた場合の対処についても知っておく必要がある。

例えば、名誉毀損やプライバシー侵害等があった場合、内容やURLの確認・保存（スクリーンショットやプリントアウト）、SNSなどの管理者やプロバイダへの削除依頼の方法を把握しておく。さらに、プロバイダは違法な情報発信停止を求めたり、情報を削除したりできるようになっているので、プロバイダに対して速やかに削除を求めるなど必要な措置を講じる。こうした措置をとるに当たり、必要に応じて法務局または地方法務局の協力を求める。なお、児童生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し適切に援助を求める。

SNSを利用したいじめなどについては、より大人の目が触れにくく、発見しにくいいため、保護者においてもこれらについて理解をもとめていくことが必要である。

情報モラルを児童生徒に指導するに当たっては、教師自身もこれらのような知識をもっている必要がある。

『教育の情報化に関する手引』にはこれらの知識以外にも、情報モラル教育の必要性や進め方、家庭・地域との連携など、多くの情報が載っている。

教師自身が豊かな知識や情報をもった上で指導することで、「情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度」である情報モラルが児童生徒に身についていく。効果的にICTの活用を進めていくためには指導技術だけでなく、こういった知識をはじめ、様々な資質・能力を教師自身が身に付けることが求められている。

各教科等の指導における ICT の効果的な活用について

(令和2年9月 文部科学省) より

【各教科等の指導における ICT の基本的な考え方】

・新学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールとの一つとして ICT を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要

《留意点》

- 資質・能力の育成により効果的な場合に、ICT を活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からも ICT を活用する。

◆各教科等における一人一台端末の使用例◆

教科等	小学校	中学校
国語	録画機能を活用して、自分や友達のスピーチをよりよいものにする。	書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる
社会	情報を集める・収集した情報を整理し、読み取り考える・考えた情報を話し合って発信する	生徒個々の課題意識に基づき、試行錯誤しながら多面的・多角的により深く考察する。
算数・数学	表に整理したデータを使って、様々なグラフを作成し、データの特徴や背景をつかむ。	関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する。
理科	学習したことを、日常生活や自然の事物・現象と結び付ける	シミュレーションを活用して、観測しにくい現象を可視化し、理解を深める
音楽	リズムカードを並べ替え、学習を見たり音で聞いたりして確かめながら試行錯誤していくことで、音楽表現を工夫する。 ソフトウェアを用いて、自分が演奏した音を可視化することにより、音のつながり方などを画面で確認し、音楽表現を創意工夫する。	
図工・美術	コンピュータの機能を生かして、形や色、構成の美しさなどを考えながら、段ボールなどで表し方を工夫して工作を作る。 タブレットPCを用いたアニメーションの制作や3Dプリンターを活用してデザインしたものを制作するなどの表現活動を行う。	
体育	心肺蘇生法などの実技の手順を動画で再確認する。 ゲームに向けて作戦を考えて交流する。(各自の視点でゲームの撮影動画を見返す)	
家庭	実習や製作の中で、つまづいた時や細かな動きを確認したいときに、何度も繰り返し再生する。	
技術	3DCADを活用して設計を最適化する	
外国語	スピーチ原稿等を読み上げタブレットが読んだとおりの英文を表示するかどうかにより、自身の音声の適切さを確かめる。 小規模校同士によるTV会議システム等を使った交流の中で、様々な相手とコミュニケーションを図る。	
道徳	端末で他者の考えを知り、自分とは異なる考えをもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。	
生活総合	振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める。 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探求の各プロセスにおいて活用する。	
特別活動	生活場面を撮影したり、サイトにアクセスしたりして、必要な情報を収集し、学校生活や社会の問題を見いだす。 個人の意見を表明し合うとともに、意見を比べ合い整理する。	
特別支援教育	障害に応じて活用 タブレットの表示変換機能（視覚障害）、授業中の発話の見える化（聴覚障害） 抽象的な事柄を視覚的に理解（知的障害）、補助具の活用（肢体不自由）、授業配信（病弱） 読み上げ機能の活用（発達障害）	

本研究では、これらの各教科の使用例だけでなく、ICT を効果的に活用する学習場面を「一斉指導による学び（一斉指導）」「子供たち1人1人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」「子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」の3つの分類例に分け、さらにそれを細分化して、10の分類例にわけた「学習場面に応じた ICT 活用の分類例」を活用しながら、研究を進めていく。

学習場面に応じた ICT の効果的な活用

授業形態	活用例	活用ツール例
A1 (一斉学習)  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	A1 教師による教材の提示 例えば、教師が教材を提示する際に大型提示装置や学習者用コンピュータに画像、音声、動画などを拡大したり、書き込みながら提示したりすることにより、学習課題等を効果的に提示、説明することができる。 また、学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて動画、アニメーション、音声等を含む指導者用デジタル教科書教材を提示することにより、子供たちの興味関心の喚起につながると、ともに学習活動を焦点化し、子どもたちの学習課題への理解を深めることができる	・プロジェクター ・電子黒板
B1 (個別学習)  <p>一人一人の習熟の程度に応じた学習</p>	B1 個に応じた学習 例えば、一人ひとりの特性や習熟の程度などに応じて、個に応じた学習を実施するにあたり、個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書や習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材を用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識技能を習得することが挙げられる。 また発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり、向上させたりすることが可能となる。この際、デジタルポートフォリオを活用して記録したり、自己評価を行ったりすることも考えられる。	・すらら ・eboard ・Qubena 等
B2 (個別学習)  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	B2 調査活動 例えば、インターネットやデジタル教材を用いた情報収集、観察における写真や動画等における記録など、学習課題に関する調査を行うことが挙げられる。学習者用コンピュータ等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集、記録、保存することで、細かな観察情報による新たな気づきに繋げることができる。また、インターネットやデジタル教材等を用いたり、専門家とつないだ遠隔学習を通じて効率の良い調査活動と確かな情報収集を行ったりすることで、情報を主体的に収集、判断する能力を身につけることができる。この際、インターネット等で得た情報に記号や番号等を付してソートし、整理したりすることも考えられる。	・Google Meet ・ZOOM
B3 (個別学習)  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	B3 思考を深める学習 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習課題の試行により、考えを深める学習を行うことが挙げられる。 試行を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深めることができる。また、デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより、通常では難しい実験・試行を行うことができる。	・デジタル教科書 ・教科書会社の提供コンテンツ ・Web コンテンツ
B4 (個別学習)  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	B4 表現・制作 例えば写真音声動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料作品を制作することが挙げられる。 写真、音声動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の構造に繋げることが可能となる。また、個別に制作した作品等を自在に保存、共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通した活発な意見交流を行うことが可能となる。	・ドキュメント ・Google スライド ・Google photo ・有料アプリ
B5 (個別学習)  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	B5 家庭学習 例えば、学習者用コンピュータを家庭に持ち帰り、動画やデジタル教科書、教材などを用いて授業の予習復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組むことが可能となる。また、学習者用コンピュータを使ってインターネットを通じ、体験交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない、さまざまな意見に触れることが可能となる。	・Google Classroom ・すらら ・有料アプリ
C1 (協働学習)  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	C1 発表や話し合い 例えば、学習課題に対する自分の考えを、書き込み機能を持つ大型提示装置を用いてグループや学級全体にわかりやすく提示して、発表・話し合いを行うことが挙げられる。学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な視点に触れたりすることが可能となる。 また、学習者用コンピュータを使ってテキストや動画で表現や考えを記録、共有し、何度も見直ししながら話し合うことにより、新たな表現や考えの気づきを得ることが可能となる。	・電子黒板 ・プロジェクター ・Google ドキュメント ・Google スライド
C2 (協働学習)  <p>協働の意見・考えを議論して整理</p>	C2 協働での意見整理 例えば学習者用コンピュータを用いて、グループ内で複数の意見、考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら、協働で意見整理を行うことが挙げられる。クラウドサービスを活用するなどして学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。また、学習者用コンピュータや大型提示装置に、クラウドサービスを活用してグループ内の複数の意見・考えを書き込んだスライドや、書き込みをしたデジタル教科書、教材を移すことなどにより、互いの考えを視覚的に共有することができ、グループ内の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。	・Google Jamboard ・Google スライド ・Google Classroom
C3 (協働学習)  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	C3 協働制作 例えば、学習者用コンピュータを活用して写真、動画等を用いた資料・作品をグループで分担したり、協働で作業しながら制作したりすることが挙げられる。 グループ内で役割分担し、クラウドサービスを活用するなどして同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業することが可能となる。また、写真・動画等を持ちて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、子供たちが豊かな表現力を身につけることが可能となる。	・Google スライド ・Google Jamboard
C4 (協働学習)  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>	C4 学校の壁を超えた学習 例えば、インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信などを行うことが挙げられる。 インターネットを用いて他校の子供たちや地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様な物の見方を身につけることが可能となる。また、テレビ会議等により、学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聴くことにより、子どもたちの学習内容への関心を高めることが可能となる。	・電子黒板 ・プロジェクター ・Google Meet ・ZOOM

3 研究の視点

指導の個別化 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

(1) 教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）

「小学校学習指導要領解説 総則編（以下「総則」）」には、「評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わるのではなく、教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感することができるようにすることで、自分自身の目標や課題を持って学習を進めていけるように、評価を行うことが大切。」であると書かれている。また、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（以下「答申」）には、「全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなどの、『指導の個別化』が必要である。」「個々の児童生徒の特性や学習進度を丁寧に見取り、その状況に応じた指導方法の工夫や教材の提供等を行うことで、すべての児童生徒の資質・能力を確実に育成すること。」とある。

教師には、一人一人の児童生徒の学習状況を多面的・多角的に把握し、一人一人の児童生徒の力を最大限引き出すためのきめ細かな指導をすることや、児童生徒の学習状況を評価し、学習の評価を的確に捉え、指導の改善を図ることが求められている。

そこで、本研究では、教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、それを児童生徒に伝えたり、児童生徒に適した課題や教材を提供したりすることにより児童生徒自身に現在の自己の学習状況を把握させ、学習内容を学習する意義や価値を実感させながら、児童生徒の学習改善へとつなげていきたい。また、教師が単元や学習のまとまりの中で、児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て方を考えたり、効果的な評価をする場面を考えたりすることで、教師の指導改善へとつなげていきたい。

- ・指導したことの評価（指導していないことを評価をしない）
- ・教師による評価（パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価、各種テスト等）
- ・ルーブリックを活用した形成的評価（教師の丁寧な見取りと、児童生徒による自己評価や相互評価）
- ・児童生徒が伸びや自己の学びの状況を自覚する評価（児童生徒の学習改善や、教師の指導改善につながる評価）
- ・評価場面の精選（より効果的な評価の方法の模索）
- ・評価を生かした学習場面の精選（児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立て）

(2) 学習計画（学習の見通し）

答申では、「子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」「とりわけ小学校中学年以降、学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につながるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切である。（中略）授業改善に当たっても、学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行うことが考えられる。また、学校の授業以外の場における学習の習慣や進め方についても視野に入れ、指導を行うことが重要である。」とあり、児童生徒を自らの学習を調整することができる、“自立した学習者”に育成することが求められている。

そこで本研究では（１）「教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）」の中で自覚した自分の学習状況から、「自分は何ができていて、何が出来ないのか」また、「何が得意で何が苦手なのか」などといったことを把握した上で、どのように学習していくことが自分の学習方法として適しているのかを考えたり、教師や仲間と相談し

合ったりしながら学習計画を立てられるようにしていきたい。また、そのとき、教師は、学習する単元やまとまりの中で育成すべき資質・能力を明確にするのはもちろん、その学習が社会や世界とどのようにつながっているのか、また、児童生徒のキャリアとどのような関わりがあるのかを児童生徒にイメージさせながら、児童生徒が学習する意義や価値を感じられるようにしていきたい。

- ・自分の現在地の確認（自己の学習状況の自覚と、それを促す教師の適切な支援）
- ・児童生徒による自己に適した学習方法の模索（寄り添いながら最適な方法を一緒に探す教師や仲間）
- ・学ぶことと自己のキャリア形成との関わりイメージ（学ぶことと自己との関連）
- ・学ぶ意義や価値を実感させる教師による説明（自己の生活と学びとの関わり）

（3）知識・技能の確実な習得（習得）

総則では、『何を学ぶか』という教育の内容を重視しつつ、児童生徒がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童が『何ができるようになるか』を併せて重視する必要がある、児童生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる。」「資質・能力の育成は、児童生徒が『何を理解しているか、何ができるか』に関わる知識及び技能の質や量に支えられており、知識や技能なしに、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見出していくことは難しい。（中略）こうした『知識及び技能』と他の二つの柱との相互の関係を見通しながら、発達の段階に応じて、児童生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしていくことが重要。」とあり、知識・技能の確実な習得が求められている。また答申の中で、「学びに向かう力の育成は幼児期から成人までかけて徐々に進んでいくものであるが、初期の試行錯誤段階を経て、様々な学びの進め方や思考ツールなどを知り、経験していくことが重要である。」「児童生徒や学校の実態に応じ、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることなどにより、個に応じた指導の充実を図ることが規定されている。補充的な学習を取り入れた指導を行う際には、様々な指導方法や指導体制の工夫改善を進め、学習内容の確実な定着を図ることが必要であり、発展的な学習を取り入れた指導を行う際には、児童生徒の負担が過重にならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げるといった観点から適切に取り入れることが大切。」とあり、学習内容（知識・技能）の確実な習得のための、「個別最適な学び」の実現が求められている。

そこで、本研究では、教師は一斉指導のみで習得させるのではなく、時に学びを支える伴走者として児童生徒の主体的な学びを支援したり、知識・技能の習得のためにどのような学びの進め方や思考の仕方（思考ツールの活用）が効果的かを伝えたり、一緒に考えたり、あるいは、教師自身も学習者の一人として一緒に学習したりするなど、児童の発達の段階や学習課題などに合わせた柔軟な指導・支援をしながら、学習内容の確実な定着につなげていきたい。また、その際、ICT 機器を有効に活用し、一人一人の学びに適した「個別最適な学び」の実現を目指していく。

- ・学習指導要領の着実な実施（すべての児童生徒の学習内容の確実な定着）
- ・ゴールに向かう学習の進め方や思考の仕方（思考ツールの活用や情報活用能力の向上など、学習方法の獲得）
- ・授業と宿題の役割を反転させる反転授業（授業外での動画視聴や、対面授業を最大限に活かす授業展開）
- ・ルーブリックを活用した、自己評価・相互評価。（習得すべき知識・技能の明確化）
- ・全ての児童生徒を「おおむね満足できる」状態にする指導・支援（個に応じた指導・個別最適な学び）

（4）思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）

総則では、「児童生徒が『理解していることやできることをどう使うか』に関わる『思考力、判断力、表現力等』は、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能

をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますその重要性は高まっている。答申においても、「知識及び技能の習得や活用の喜び、充実感を味わう活動を充実させることが重要である。」とあり、思考力・判断力・表現力等の育成のためには、知識・技能を活用することが求められている。

また、総則には「今回の改訂においては、次項のとおり、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点に立って育成することを規定している。」
「各教科等で身に付けた資質・能力を様々な場面で統合的に働かせることができるよう、知識と生活との結びつきや教科等横断的な視点を重視した教育を行っていくことが必要。」ともある。また、答申の中でも「新学習指導要領では、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされており、その充実を図ることが必要である。具体的には言語能力については、まず、教科学習の主たる教材である教科書を含む多様なテキスト及びグラフや図表等の各種資料を適切に読み取る力を、各教科等を通じて育成することが重要である。(中略)コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりといったことができる力、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得を含めた情報活用能力を育成することも重要である。」とあり、各教科で身に付けた資質・能力を活用したり、資質・能力を活用して活動したりすることで学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に立って育成することが求められている。

そこで、本研究では、学習する単元や学習のまとまりの中で、各教科等で身に付けた知識・技能を活用して新たな知識・技能を獲得させたり、教科等横断的な視点に立った指導を行いながら、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる力の育成を図ったりしていく。

児童生徒に知識・技能を活用させながら学習を進めることで、新たな知識・技能を得ることができることや、様々な資質・能力の向上につながることを実感させながら、未知の状況にも対応することが思考力・判断力・表現力等の育成を目指していきたい。

- ・新たな知識・技能の習得に向けた、既得の知識・技能の活用（習得すべき知識・技能と既得の知識・技能との関わり）
- ・粘り強く未知の状況に取り組む態度の育成（未知の状況に個別的に、協働的に向かう児童生徒の育成）
- ・各教科の教科書等を読解できる言語能力の育成（国語科を中心とした言語能力の活用、発揮）
- ・課題解決に向けた情報活用能力の育成（1人1台端末の効果的な活用）
- ・教科等横断的な学習による、学習の基盤となる資質能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質能力の育成（育成を目指す資質・能力の明確化）
- ・教科間の関係性を深める合科的・関連的な指導や、各教科の見方・考え方の発揮（教科間の関わりでの明確化）

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

(5) 学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）

総則では、『深い学び』の視点に関して、各教科の学びの深まりの鍵となるのがである。各教科等の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方である『見方・考え方』は、新しい知識及び技能をすでにもっている知識及び技能と結びつけながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力等を豊かなものとし、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげるのが重要である。」「各教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に留意しつつ、児童生徒の興味・関心を生かした学習指導を展開することが大切である。児童生徒の興味・関心を生かすことは、児童生徒の学習意欲を喚起する上で有効であり、また、それは自主的、自発的な学習を促すことにつながると考えられるからである。この意味で各教科等の指導においては、学習することの意味の適切な指導を行いつつ、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、自主的、自発的な学習を促すことによって、児童生徒が学習の目的を自覚し、学習における進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度が育つよう配慮することが大切である。」とある。また、答申では「児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすという観点から、新たなICT環境や先端技術を最大限活用することなどにより、基礎的・基本的な知識・技能や言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成が行われるとともに、多様な児童生徒一人一人の興味・関心に応じ、その意欲を高めやりたいことを深められる学びが提供されている。」「修得主義の考え方と一定の期間の中で多様な成長を許容する履修主義の考え方を組み合わせ、『学習の個性化』により児童生徒の興味・関心等を生かした探求的な学習等を充実すること」とあり、各教科で身に付けた資質・能力や見方・考え方、教科等横断的な学習を通して身に付けた資質・能力を活用して探求的な学習等を充実させることが求められている。

そこで、本研究では、それぞれの興味・関心を生かした学習や児童生徒による課題選択の場などを、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等に設定するなどしながら、各教科の見方・考え方を働かせた活動や学習の基盤となる資質・能力を効果的に活用・発揮する時間や場を設け、学習内容の深まりや広がりへとつながる、より深い学びを目指していきたい。

- ・問題発見・解決能力の育成（実社会や実生活から課題を発見する学び）
- ・自主的・自発的な学び（自己の興味・関心を生かした学習場面の設定）
- ・学習の基盤となる資質・能力の活用・発揮（活用できる資質・能力の自覚）
- ・総合的な学習の時間や特別活動の時間による課題選択の場の設定（学びを生活に生かす体験）
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を活用することの喜びを得られる学び（自己のキャリア形成との関わり）

(6) 自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）

総則では、「今回の改訂においても、引き続き児童生徒の学習意欲の向上を重視しており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たって、特に主体的な学びとの関係からは、児童生徒が学ぶことに興味や関心をもつことや、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげることなどが重要になる。（中略）具体的には、例えば、各教科等の指導に当たっては、児童生徒が学習の見通しを立てたり、児童生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設けることや、児童生徒が家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり学習した内容を振り返って復習する機会を設けることなどの取組が重要である。これらの指導を通じ、児童生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上が図られ学習内容が確実に定着し、各教科等で目指す資質・能力の育成にも資するものと考えられる。」とあり、学習内容や学習習慣の定着のために、学習を振り返ることで児童生徒に「学びの自覚」を促すことが求められている。またその具体的な方法として「自分の思考や行動を客観的に把握し認識するいわゆる『メタ認知』に関わる力を含むものである。こうした力は、社

会や生活の中で児童生徒が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見出したりできるようにすることにつながる重要な力」と、「メタ認知」について触れられており、「メタ認知能力」の向上も求められている。

そこで本研究では、1単位時間または、単元や学習のまとまりの中で、学習の成果や課題、自己の変容を自覚できるような時間や場を設定し、自分の学びの過程や成果、課題等をメタ認知することを通して、自らの学びを自覚させることにより、学習内容の定着はもとより、次の学びに向かう態度や学習習慣の定着につなげられるようにしていきたい。

- 学習を振り返る場面の設定（学習の成果や課題、自己の変容の自覚）
- 客観的に自己の状況を把握する自己評価や相互評価（メタ認知能力や自己分析能力の育成）
- 課題解決ができなかった時の自己の状況の認知（自己の間違いの修正）
- 次の学習に向けた学習行動の選択（学習行動の広がりと深まり）

（7）自己のキャリア形成とのつながり

総則では、「児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図ることを示している。（中略）また、将来の生活や社会と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。」とある。また、答申でも「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」「キャリア教育の充実にあたっては、小学校から高等学校までを通じ、各教科等での指導を含む学校教育全体でその実践を行いつつ、総合的な学習の時間において教科等を横断して自ら学習テーマを設定し探求する活動や、特別活動において自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価する学習活動を充実していくことが求められる。」とあり、学習したことが児童生徒の生活や社会とどのような関わりがあるのか、また、自身のキャリア形成にどのような影響があるのかなど、学習したことと自己の生活や将来とをつなげていくことが求められている。

そこで、本研究では、特別活動の学級活動を要としながら、学習したことが社会や「大人の世界」（職業）とどうつながっているのかを意識させたり、自己の生活や将来との接点について考えたりしながら、学びを自分たちの暮らしや社会やより広い世界、未来へとつなげることができるようにしていきたい。

- 学習と自らの将来・生活または、社会との関係の想像（自己のキャリア形成との関わり）
- 自己の生活における育成された資質能力の活用（学校や学級での活用・発揮）
- 児童生徒に成長の自覚を促す教師の関わり（教師による肯定的な対話的な関わり）

協働的な学び

異なる考え方が組み合わせよりよい学びを生み出す

(1) 教師の児童生徒へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）

答申では、「新型コロナウイルス感染症対策に伴い臨時休業が行われる中、学びを保障する手段としての遠隔・オンライン教育が注目されるとともに、教師による対面指導や、子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動など、リアルな体験を通じて学ぶことの重要性も改めて注目された。子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められる。」「教師が技術の発達の新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。」「AI技術が高度に発達する時代にこそ、教師による対面指導や児童生徒同士による学び合い、地域社会での多様な学習体験の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICTも活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することが求められる。」「教師は、授業研究の積み重ねにより、『子供はいかに学ぶか』『どう支援するか』を問い直していく。」とあり、教師に求められるものとして「壇上の賢人」だけではなく、「子供の学びを支援する伴走者」としての役割も求められるようになってきた。

そこで、本研究では、児童生徒が考える場面と教師が教える場面を効果的に組み合わせながら、単に知識・技能を伝えるのではなく、児童生徒の思考力が高まるような発問の工夫や、児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者としての役割、教師と児童生徒が一緒になって課題解決を目指す学習、教師が一番熱心に課題に取り組むなど、教師が学級や児童生徒の発達の段階や実態に応じて、柔軟にその役割を変化させながら児童生徒と関わったり児童生徒と児童生徒をつなげたりしながら資質・能力の育成や、学習意欲の向上のための学習の効果の最大化を図っていききたい。

- ・思考力が高まる発問の工夫（1問1答ではない、思考が深まる広がる発問づくり）
- ・児童生徒の学びを支援する伴走者としての教師の役割（考えさせる場面と教える場面の組み合わせ）
- ・児童生徒と児童生徒、児童生徒と教材等をつなぐ（ファシリテーター（進行役）としての教師）
- ・子どもと一緒に行う探究的な学び（自ら興味・関心をもちながら周りを巻き込むジェネレーターとしての教師）

(2) 学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）

総則では「児童一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ、生徒指導の重要な目標の一つである。」とあり、教師には児童生徒が自分らしさを発揮でき、のびのびと過ごせる楽しい学級づくりや環境づくりが求められている。また、答申では「学習内容の理解を定着する観点からは、単に問題演習を行うのではなく、内容を他者に説明するなどの児童生徒同士の学び合いにより、児童生徒が自らの理解を確認し定着を図ることが、説明する児童生徒及びそれを聞く児童生徒の双方にとって有効であり、授業展開としても重要であると考えられる。」「各児童生徒が深めた学習の成果を持ち寄って共有し、児童生徒の学び合いを行い、またその結果を各自で深めるといった循環を作っていくことが大切である。」とあり、「個別最適な学び」が「孤立した学びに」となることがないようにすることが求められている。

そこで、本研究では、互いに意見を受け入れ、認め合えるような、安心安全な場としての教室づくりや、それぞれが自分の意見を伝え合うことで、多様な他者の多様な意見に触れることが、自分の考えを深めたり広げたり

することにつながるということを実感させるのととも、多様な他者を価値のある存在として尊重する態度へとつなげていきたい。

- ・他者の多様な意見に触れる学習（個別最適な学びを生かす授業展開）
- ・多様な意見を認められる態度の育成（学級内における支持的風土の醸成）
- ・他者の視点や、価値等を用いて考えられる場の設定（他者の立場に立ち、考えを広げる児童生徒の育成）
- ・広がりや深まりに向けた学習の成果の共有（多様な他者を価値のある存在として認める態度の育成）

（3）課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）

総則では「変化の激しい社会の中で、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、児童生徒一人一人に育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが大切である。」としている。また、答申にも「ICT の活用により、子供一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編成作業等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」もまた発展させることができる。」「発展的な学習としては、内容理解を深める学習を更に充実させることが重要であるが、その際には、個別学習のみで学習を終えることにならないように留意し、学校ならではの「協働的な学び」が取り入れられるよう教育活動を工夫する必要がある。」と書かれており、多様な他者との協働的な学びを通して、学びを深めたり合意形成を図ったりすることが求められている。

そこで、本研究でも、各教科や総合的な学習の時間や特別活動等で、探究的な課題やそれぞれの学校・学級の諸問題に協働的に取り組むなどしながら、最適解・納得解を導き出す経験を通して、多様な人々と協働して様々な社会的変化を乗り越えようとする態度へとつなげていきたい。

- ・集団で一つの解に向かう探究的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ・それぞれの考えや意見を集団の向上につなげる協働的な学び（自他の考えを結合し、よりよい考えにしようとする協働的な学び）
- ・学校行事、学級での活動等における目標の達成に向けた協働的な学び（集団の中での試行錯誤の経験）

（4）学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）

総則では、「今回の改訂においては、前述の児童生徒を取り巻く環境等を踏まえ、児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるようにすることを重視し、集団の中で体系的・継続的な活動を行うことのできる学校の間を生かして、地域・家庭と連携・協働して、体験活動の機会を確保していくことを示している。」と書かれている。また、答申にも「人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠であり、知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI 技術が高度に発達する society5.0 時代にこそ一層高まる。」と書かれており、地域や家庭との連携や学校や地域の特色を生かした活動や、リアルな体験活動を充実させることが求められている。

そこで、本研究では、総合的な学習の時間や特別活動等において、学校や地域の特色に応じた課題を設定するなどし、異学年合同での学習、小中連携、合科的・関連的な学習などの各学校・地域の実態に応じた体験活動を充実させながら、資質・能力の育成を目指すのととも、身近な地域の魅力や課題などを知り、地域の構成員の一人としての意識が育成されることにつなげていきたい。

- ・学校の規模、地域の実態等に応じた体験活動（体験することで得られる学びの充実）
- ・小中連携や、合科的・関連的な学習などの“つなぐ”学習（学びが繋がっていく体験）
- ・地域の発展に寄与しようとする態度の育成（住んでいる地域の課題について考える場の設定）

○学校 ○○科学習指導案

日時 令和 □年 □月 □□日 (□) □校時

児童(生徒) ○○○立○○○学校 第 学年 名

指導者 △△ △△ 教諭

1 単元名

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に作成

2 単元の目標

- ・ (知識・技能)
- ・ (思考力・判断力・表現力等)
- ・ (学びに向かう力、人間性等)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に作成

3 単元の評価規準(具体的な内容のまとめりごとの評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①

4 教材について

指導書を参考に、既習事項との関連、育成したい資質・能力を明確にする。「なぜ、この教材なのか。」ということが分かるように書く。

5 児童(生徒)の実態

①全体的な実態 ②教科の実態 ③本単元での活動と目指したい姿

6 研究の視点との関わり

(1)と(2)の視点について、書ける視点は全て書く。(書くことが難しければ書かなくてもよい。)

(1) 視点1 個別最適な学び

- ①教師の丁寧な見取り(指導と評価の一体化)
- ②学習計画(学習の見通し)
- ③知識・技能の確実な習得(習得)
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用(活用)
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び(探究)
- ⑥自身の変容や成長の自覚(学習の振り返り)
- ⑦自己のキャリアとのつながり(キャリア形成)

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

(2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の児童（生徒）へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
- ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ④学校の特徴に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）

- ①
- ②
- ③
- ④

・一番左には「計画」「習得」「活用」「探究」「自覚（学びに向かう力・人間性等）」いずれかの学習の段階を書く。

・課題は、本時の評価規準（目標）を児童（生徒）の実態に応じて、子供が取り組みやすい表現で。

・育成を目指す資質・能力については、教科等横断的な学習についても書く。

・それぞれの活動の形態が個別最適な学びと協働的な学びか、それとも一体的かを示す。

・評価方法については、別紙、研究の具体「学習評価（見取り）の仕方は？」を参考にして記載する。（あくまでも参考。実態に応じて書く）

7 単元の指導計画（○時間）

(1) 児童（生徒）の学習計画

	時数	育成を目指す資質・能力	主な学習内容および学習活動 [] 学習形態 <input type="checkbox"/> 課題 【 】 他教科との関わり	■評価規準 () 評価方法 【 】 研究の視点	ICTの活用
計画			1		
習得			1		
習得			1		
活用			1		
探究			1		

別紙、研究の具体「教科等横断的な視点に立って育成する資質・能力とは？」を参考に記入する。 ※すべて書かなくてもよい。

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	その他（現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等）
知識・技能				
思考・判断・表現				
学びに向かう力・人間性等				

学習指導要領の内容から抜粋して記載する。

※すべて書かなくてもよいが、関連づけられそうなものはできるだけ書くようにする。

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	社会	数学	理科	音楽	美術
保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動

8 本時の実際

(1) 本時の目標

「7 単元の指導計画(1) 児童の学習計画元計画」の評価規準を本時の目標として設定する。

「○おおむね満足できる」状況は、本時の目標を基に作成する。
 「◎十分満足できる」状況については児童(生徒)の学習負担にならない程度の高次のものを設定する。

(2) ルーブリック(評価基準)

評価基準	児童(生徒)の学習状況
◎「十分満足できる」状況	
○「おおむね満足できる」状況	
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	

- ・課題とまとめは、単元計画と同じように囲む。
- ・過程は「導入」「展開」「終末」を基本とする。
- ・課題は本時の目標と正対するまとめの活動にする。
- ・本時の評価規準と評価方法の具体を評価場面で記載する。
- ・全ての児童生徒が本時の目標を達成できる手立てを記載する。
- ・ICTを活用する場面を必ず設け、「◇教師の主な働きかけ」に記入する。

(3) 本時の展開(/)

過程(分)	○主な学習活動【】活動形態 ・予想される児童(生徒)の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 【】研究の視点 ▲努力を要する児童(生徒)への手立て
導入(分)			
展開(分)			
終末(分)			



Ⅲ 研究員・研究協力員の実践



提案授業

○小平町立小平中学校 第3学年 社会科「私たちの暮らしと現代社会 私たちがつくるこれからの社会」
野々村 光 史 研究員

検証授業

○増毛町立増毛中学校 第1学年 保健体育科「心身の発達と心の健康 欲求不満やストレスへの対処」
山形 大 介 研究協力員

○天塩町立天塩小学校 第6学年 国語科「物語の魅力を見つけて書こう～きつねの窓～」
坂 本 千 恵 研究協力員

1 単元名 第1章 私たちの暮らしと現代社会 3 私たちがつくるこれからの社会

2 単元の目標

- ・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解するとともに、人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義について理解する。(知識・技能)
- ・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力・判断力・表現力等)
- ・現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準(具体的な内容のまとめりごとの評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 ②人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義について理解している。	①対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	①現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 教材について

第1章は、「グローバル化」・「情報化」・「少子高齢化」を切り口に社会の現状と課題にせまる1節、我が国をつくり支えてきた「伝統文化」の意義への理解を深める2節、「対立と合意」・「効率と公正」の概念の獲得を目指し、ルールを果たす役割を認識する3節からなっている。

学習指導要領の「公民的分野の内容(1)『イ 現代社会をとらえる見方や考え方』においては、「人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる」ことがかけられている。

「対立と合意」の考え方は、今後公民的分野の学習を進める中で、生徒の見方や考え方に結びついてくる。問題解決を図るためには、決して安易な選択ではなく、様々な立場からの考察や社会的な背景、時系列的な要素など多面的・多角的な視点を取り入れることが必要となってくる。また、身近な事例から「効率」が社会全体で「無駄を省く」ということ、すなわち、「合意」された内容が無駄を省く最善のものになっているかを検討することや、「公正」には機会の公正さや結果の公正さなどさまざまな意味合いがあることを理解し、「合意」の手続きについての公正さや「合意」の内容の公正さについての理解を生徒により深めさせたい。

本単元を通して、「物事の決定の仕方」や「きまり」に関する社会的事例を示し、その意義を考えさせること

を通して現代社会の見方や考え方の基礎を身に付けさせたいと考える。

5 生徒の実態

本学級の生徒は、全体的に落ち着いてしっかりとした学習態度で授業に臨み、教師の指示を素直に聞き、作業にもまじめに取り組むことができている。また、新聞・ニュース等で報道されている時事問題に対して、高い関心を示し、それに対する自分の考えを積極的に発言したりする生徒も見られる。その一方で、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や、資料をもとに思考を高め、自分の考えを整理して発表する能力がすべての生徒に十分に身につけているとは言えず、これらの能力を高めることについては課題が見られる。また、CRT検査においては、社会的な思考・判断・表現および社会的事象についての知識・技能の観点において、課題が見られた。これらのことから、社会的事象における基礎的な知識を身に付けさせるとともに、社会的事象について多面的・多角的に考察する力を高めていくことが、今後の教科指導における課題である。

6 研究の視点との関わり

(1) 視点1 個別最適な学び





- ①教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- ②学習計画（学習の見通し）
- ③知識・技能の確実な習得（習得）
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）
- ⑥自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- ⑦自己のキャリアとのつながり（キャリア形成）

- ① 本単元で身に付ける対立と合意、効率と公正などは、現代社会をとらえる見方・考え方の基礎となるものであり、今後の学習や生活において多面的・多角的に考察し、表現していく上で重要となっていくものである。これらの資質・能力を身に付けさせるために、本単元では、ルーブリックを活用して生徒と評価基準を共有する。ルーブリックを活用しながらそれぞれの生徒が教科書やインターネットなどで知識を習得していく中で、概念として定着しているかどうかを行動観察や学習の成果物などを通して把握していく。形成的評価を繰り返す中で知識の定着が十分でないと判断した生徒に対しては重点的に指導しながら、全員が「おおむね満足できる」状況であるB評価以上となることを目指す。
- ② 単元の初めに、単元を通して身に付ける資質・能力や、単元の進め方の大まかな見通しを生徒と共有する。その上で、どのようにその資質・能力を身に付けるのかという“学ぶ方法”を生徒自身に考えさせたり、選択させたりする。計画を立てることに困難を抱えるような生徒がいる場合は、教師が寄り添って一緒に考えたり、その生徒に適切であると教師が判断する学び方をいくつか提示したりしながら、学習に対して受け身になるのではなく、主体的に学習を進めようとする態度の育成を目指す。
- ③ 本単元で身に付ける知識は「対立と合意、効率と公正などについて理解すること。」「個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解すること。」である。これらについて、教科書やインターネットなどを活用した調査活動や、そこで得た知識を活用した話し合い、理解度をチェックする場の設定などを通して確実に身に付けさせたい。教師の見取りの中で理解が不十分だと思われる生徒については教師と一緒に考えたり、教師が重点的に指導を行ったりしながら、確実に知識・技能を習得できるよう徹底的に寄り添っていく。
- ④ 1・2時間目に身に付けた知識を活用して、3・4時間目に教科書の事例についての話し合いを行う。話し合いをする中で、人々の対立を調整し合意に至るルールの内実について考えさせたり、共通の話題

- についてグループで協働しながら提案書を作成する中で様々な意見に触れたりしながら、社会生活における物事の決定の仕方やきまりの役割などについて、多面的・多角的に考察し、表現できるようにしていく。
- ⑤ 単元の最後に、生徒にとって身近な話題である資料 ㉓の「中学校の制服が変更されたパンフレット」を活用し、「効率と公正」の観点から考察する活動を行う。その際、「どちらがよいか」「どうすればよいか」といった問いを大切にしながら、全員で共通理解するのではなく、生徒一人一人の選択や判断を大切にしながら、社会と自分たちとの関わり方について主体的に考えていこうとする態度へとつなげていきたい。
 - ⑥ 単元の最後に資料 ㉓の「中学校の制服が変更されたパンフレット」を活用し、「効率と公正」の観点から考察することや、単元を貫く問い「ともによりよい社会をつくっていくために、私たちはどのように社会のルールを考えればよいのだろうか」について自分の考えをもつ時間を設けたあとに、単元全体の学習を振り返る。単元を貫く問いへの自分なりの考えを言語化し、学びを自覚した上で学習を振り返ることで、何を学べたのか、どのように成長したのか、あるいは何が分からなかったのかなどといった自分自身への気付きを促していきたい。
 - ⑦ 単元の最後に、単元全体の振り返りとして、単元を貫く問いについて自分の考えを文章にまとめる活動を行い、単元を通じた学びを自覚させた上で、学習したことがそれぞれの生活やキャリアの中でどのように生かせるのか。それぞれの生活やキャリアの中で活用できるような場面とはどんな場面か。その時に自分はどう行動するのかなどといったことを具体的にイメージする時間を設ける。学習したことを振り返るとともに、自己の生き方に生かしていこうという態度へとつなげていきたい。

(2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の生徒へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
 - ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
 - ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
 - ④学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の交流）
-
- ① 学習を進めていく中で困難を抱えている生徒がいる場合に教師が適切に支援することはもとより、生徒一人一人にどのようなつまずきが見られるのか、現在の学習状況を把握したり、学習を進める中でどのようなつまずきが見られそうなのかを予測したりしながら、学習を進めていく。一人一人を丁寧に見取りながら、それぞれの生徒に適切な支援・指導を行い、単元終了後に実現してほしい生徒の姿の達成を目指していく。
 - ② 単元を通して、自分の考えを文字や言葉で表現する活動を多く設定する。各生徒が深めた学習の成果を持ち寄ってそれを共有することで、学習したことを広げたり深めたりすることはもとより、物事を多面的・多角的に考えようとする態度へとつなげていきたい。
 - ③ グループで1つの「提案書」を作成する場面を設定し、生徒同士が力を合わせて課題を解決しようとする状況を創り出す。その際、立場や根拠、理由付けを明確にして考えを説明するように指導する。全員で最適解・納得解を導き出す協働的な学びを目指すことで、本単元で身に付ける資質・能力「対立と合意、効率と公正」について、体験を通じた深い理解へとつなげたい。
 - ④ 「地域への貢献」に関わる総合的な学習を通して、互いのよさを生かしながら学習に取り組む態度を育て、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにする。

習得	<p>1 知識・技能 言語能力① その他(現代的な課題に対応して求められる資質・能力等) ①</p>	<p>1 本時に身に付ける資質・能力を確認する。[協] ・効率と公正について理解することができる。 ・物事の決定の仕方を効率と公正の観点から考察し、自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>2 本時の評価を共有する。[協]</p> <p>3 効率と公正について理解するために、それぞれについて自分の言葉でまとめる。[個]</p> <p>4 教科書「ルールについて考えよう～合唱コンクールの練習～」にふれる前に、簡単な「対立」の事例を通して「効率と公正」について考える。[個][協] ・三つのアイスクリームを二人で分けるための解決方法を考える。</p> <p>5 ジャンケンが公平かについて考える。[個][協]</p> <p>6 ①「ルールについて考えよう～合唱コンクールの練習～」について、「効率」と「公正」という語句を使って自分の意見をまとめ、話し合いをする。[協]</p> <p>7 ①の事例で「家にあるキーボードを学校に持ってきて、教室練習をしたいというクラスが出てきたら、どうしたらよいか」について考え自分の意見をまとめる。[個]</p> <p>8 「効率」と「公正」の視点をもって合意形成をめざす重要性を、自分の言葉でまとめる本時の振り返りを行う。[個]</p> <p style="text-align: center;">【国語との関わり①②③】 【道徳との関わり①】 【特別活動との関わり①】</p>	<p>知②(ノート、ワークシート) 【視点1③】 【視点2①②】</p>	 <p>より知識を深めるために、インターネットの検索機能を使って情報収集を行う。</p>  <p>よりたくさんの意見に触れるために、チャット機能を使って情報を共有する。</p> <p style="text-align: center;">育成を目指す情報活用能力 ①②③④⑤⑥</p>
活用	<p>1 思考・判断・表現 言語能力② ③④⑤⑥ 問題発見・解決能力① ②③④ その他(現代的な課題に対応して求められる資質・能力等) ①②③④</p>	<p>1 本時に身に付ける資質・能力を確認する。[協] ・物事の決定の仕方やきまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>2 本時の評価を共有する。[協]</p> <p>3 事例②「ルールを作ってみよう～ごみ集積所の新たな設置～」を読み、設置場所についての自分の考えをまとめる。[個]</p> <p>4 グループごとに「合意案」を作成する。[協]</p> <p>5 他のグループの意見を聞き、「効率と公正」の観点から分析し、互いに評価を行う。[協]</p> <p>6 本時の振り返りを行い、効率と公正の観点を大切にしながらルールをつくることの重要性と必要性についての理解を深める。[個]</p> <p style="text-align: center;">【国語との関わり①②③④】 【社会との関わり①②】 【道徳との関わり①】 【特別活動との関わり①】</p>	<p>思①(ノート、ワークシート) 【視点1④】 【視点2②③】</p>	 <p>効率的に「合意案」を作成するために、パワーポイントを使って作業を同時に進める。</p> <p style="text-align: center;">育成を目指す情報活用能力 ①②③④⑥</p>
探究	<p>1 思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性 言語能力②</p>	<p>1 本時に身に付ける資質・能力を確認する。[協] ・よりよい暮らしの在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に考えを深めることができる。</p> <p>2 本時の評価を共有する。[協]</p> <p>3 前時に各グループで作成した「提案書」につい</p>	<p>主①(ノート、ワークシート) 【視点1⑤⑥⑦】 【視点2①】</p>	

	<p>③④⑤⑥ 問題発見・ 解決能力① ②③④ その他（現代的な諸課題に対応 して求められる資質・能力等） ①②③④</p>	<p>て、各自が記入した意見を参考にしながら、評価カードの「効率と公正」の観点に基づいて評価を行う。[個]</p> <p>4 資料 ③の事例について「効率と公正」の観点から考察し、ルールの評価や見直しの重要性について考える。[個][協]</p> <p>5 単元を貫く問い「ともによりよい社会をつくっていくために、私たちはどのように社会のルールを考えればよいのだろうか」について自分の考えをもつ。[個]</p> <p>6 学習を振り返る。[個]</p> <p>7 自己の生活やキャリアとのかかわりについて具体的にイメージする。[個]</p> <p>【国語との関わり①②③】 【社会との関わり①②】 【道徳との関わり①②】 【特別活動との関わり①②③④】</p>	<p>自分の考えを記録するために、文書作成ツールを活用するのとともに、互いの考えを共有するために、パワーポイントを活用する。</p> <p>育成を目指す情報活用能力 ① ②③④⑥</p>
--	--	---	---

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	その他（現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等）
知識・技能		① 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能		
思考・判断・表現	<p>① 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力</p> <p>② 他者とのコミュニケーションを図る力</p>	<p>② 問題解決・探究における情報を活用する力</p> <p>③ 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造</p> <p>④ 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達</p> <p>⑤ 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p>	<p>① 物事から問題を見いだす力</p> <p>② 問題を定義する力</p> <p>③ 問題の解決の方向性を決定する力</p> <p>④ 解決方法を探して、計画を立てる力</p>	
学びに向かう力・人間性等	<p>③ 言葉を通じて自分のものの見方・考え方を広げようとする態度</p> <p>④ 集団としての考えを発展・深化させようとする態度</p> <p>⑤ 体験したことや感じたことを言葉にしたり、それらを交流させたりしながら心を豊かにしようとする態度</p> <p>⑥ 互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度</p>	⑥ 問題解決・探究における情報活用の態度		<p>① 主権者に関する教育</p> <p>② 消費者に関する教育</p> <p>③ 郷土や地域に関する教育</p> <p>④ 環境に関する教育</p>

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	社会	数学	理科	音楽	美術
<p>①A話すこと・聞くこと(1)エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>②A話すこと・聞くこと(1)オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>③B書くこと(1)ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>④書くこと(1)ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。</p>	<p>①小学校4年 内容(2)ア(イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。</p> <p>②小学校4年 内容(2)イ(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。</p>				
保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動
			<p>①内容B [相互理解、寛容] 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。</p> <p>②内容C [公正、公平、社会正義] 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。</p>		<p>①内容(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成</p> <p>②内容(2)イ 男女相互の理解と協力</p> <p>③内容(3)ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p> <p>④内容(3)イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成</p>

8 本時の実際





(1) 本時の目標

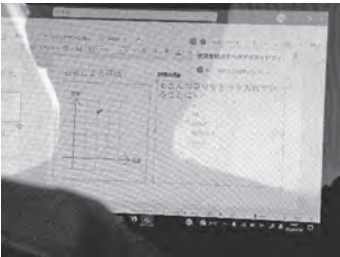


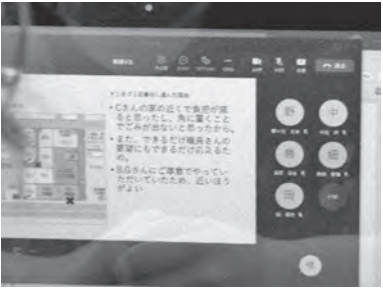

対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。(思考・判断・表現)

(2) ルーブリック (評価基準)

評価基準	生徒の学習状況
◎「十分満足できる」状況	合意できる案について、効率と公正の視点から多面的・多角的に考え、ワークシートに自分の意見をまとめ、立場の異なる意見や反論も考えることができる。
○「おおむね満足できる」状況	合意できる案について、効率と公正の視点から多面的・多角的に考え、ワークシートに自分の意見をまとめることができる。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	グループの話し合いの中で、合意できる案を見つけさせ、ワークシートに自分の意見を書かせる。

(3) 本時の展開 (3/4)

過程 (分)	○主な学習活動【 】活動形態 ・予想される生徒の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要する生徒への手立て
導入 (5分)	<p>○前時の学習を振り返る。 ・効率 ・公正 ○学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 効率と公正の観点から、ごみ収集所の設置場所を考えよう。 </div> <p>○ルーブリックを提示する。 ○資料を読み込み、場面設定や条件を確認する。 ○対立点を理解する。 ○ゴールまでの見通しをもつ。</p>	<p>◇前時に学習した効率と公正の概念をおさえる。</p>  <p>◇資料を読み込む時間を確保し、共通理解を図る。 ◇学習の流れを確認し、ゴールへの見通しをもたせる。</p>	<p>【視点(1)②】</p> 
展開 (40分)	<p>○効率・公正のいずれかの観点を 選択し、個別でごみ収集所の 設置場所を考える。</p> <p>○グループでごみ収集所の設置 場所を考え、意見をまとめ る。</p> 	<p>◇効率と公正の概念を再度おさ える。</p> <p>◇対立点を理解させ、スムーズ に話し合いができるようにさ せる。</p> 	<p>【視点(2)③】</p> <p>▲生徒の手が止まっている場合 は、同じ観点を 選択した友達 と相談するよう 促す。</p> <p>【視点(2)②③】</p> <p>■効率と公正の観点から多面 的・多角的に考 察し、表現し ている(思考・判 断・表現)</p>

	<p>○グループの代表が合意案を発表する。</p> <p>○それぞれのグループの合意案を効率と公正の観点から評価し、自分の意見をまとめる。</p> 	<p>◇パワーポイントの機能を活用させ、自由に発表ができるようにする。</p>  <p>◇パワーポイントの機能を活用させ、自由に意見を書き込めるようにする。</p> 	 
<p>終末 (5分)</p>	<p>○振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の観点を大切にしながら、問題解決にあたったか。 ・効率と公正の観点から、対立点の調整にあたることの意義を実感できたか。 	<p>◇対立から合意にいたるまでには、どのように判断すれば良いか考えさせる。</p>	<p>【視点（１）⑥】</p>

1 単元名 2章 心身の発達と心の健康 8 欲求不満やストレスへの対処

2 単元の目標

- ・心身の機能の発達と心の健康について、精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることについて理解するとともに、ストレスに対処する技能を身に付けることができるようにする。(知識・技能)
- ・心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現する。(思考力・判断力・表現力等)
- ・心身の機能の発達と心の健康についての学習に自主的に取り組もうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることについて理解したことを言ったり書いたりするとともにストレスに対処する技能を身に付けている。	①心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断しているとともに、それらを表現している。	①心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。

4 教材について

第1学年の保健編は、健康の成り立ちと疾病の発生要因を学ぶ「健康な生活と病気の予防」1章と、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら発達することについて理解を深める「心身の機能の発達と心の健康」2章の2つからなっている。

学習指導要領の「保健分野 2 内容 (2) 心身の機能の発達と心の健康」には、『ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。』、『ア(エ) 欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つためには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。』がかかげられている。

ストレス社会と呼ばれ、あらゆる刺激や出来事が潜在的なストレス源となっている今日、学校においては友人関係に起因するいじめや不登校、暴力行為などさまざまな現象が出現している。本校でも、学校生活や人間関係の失敗や困難などによるストレスに対してうまく対処できず、体調不良や欠席などにあらわれる事例もある。ストレス源やそれに対する反応は一様ではなく、生徒一人一人異なるものである。生徒個々が自身のストレス反応に気付き、その軽減のために対処法を身に付けていくことは、問題を未然に防ぐことや日々の学校生

活をより充実させることにつながっていくと考える。また、こうした取組は生涯にわたって必要なものであり、いかにストレスとうまく付き合いながらよりよい生活を送るのかについての理解を深め、今後に役立てていく資質を育てたい。

5 生徒の実態

本校第1学年の生徒は、教師の指示を聞く場面では真剣に耳を傾けて聞くことができ、活動する場面では仲間と関わりをもちながら活発に活動することができている。

また、体育分野・保健分野ともに、自分の考えをもち、積極的に発言する様子も多くみられる。しかし、中には自分の考えを整理できず、発言やワークシートに表現できない生徒や自分の考えはもっていないながらも他者に伝えることができない生徒など、「表現する力」に課題が見られる。

中学生、特に第1学年の年代は「心や身体が大きく発育・発達する時期」である。本単元を通して、心や身体について正しい知識を身に付けるとともに、さまざまな変化に対して、自分にあった対応や対処方法を、他者の考えに触れながら思考し、判断し、選択する力を高めていきたい。

6 研究の視点との関わり

(1) 視点1 個別最適な学び

- ①教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- ②学習計画（学習の見通し）
- ③知識・技能の確実な習得（習得）
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）
- ⑥自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- ⑦自己のキャリアとのつながり（キャリア形成）

- ① 本単元では、現在あるいは生涯を通じて健康に過ごしていくために、自他の健康に関心をもちながら健康の保持増進、回復を目指す実践力の基礎を育てていく。これらの資質・能力を身に付けさせるために、教科書やタブレット端末などを使用し、心身に関する知識の獲得、定着を図るとともに、成長度合いには性差や個人差があることを前提に、個人の理解度をワークシートなどから把握していく。

→ループリックを提示し、生徒と到達目標を共有した上で生徒の理解度を把握し、個に応じた支援を行っていききたい。

- ② 単元の初めに、単元を通して身に付ける資質・能力や自己の生き方とのつながりへの見通しを生徒と共有する。

本単元の学習内容は特に年齢や生活環境、経験などによる個人差があることを押さえ、一般的な“知識”と自己や周囲の“実際”に差異が出ることを理解させる。その上で、生涯を通じて健康に過ごすために、どのような能力を身に付けるべきか、心身の変化にどのように対処していけばよいかなどについて考えさせながら学習への見通しをもたせたい。

- ③ 本単元で身に付ける知識は「心身の機能の発達と心の健康について、精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。」「欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。」「心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。」、技能は「ストレスに対処する技能を身に付けることができるようにする。」である。教科書やタブレットを活用したり、自身や周囲の経験を共有したりしながら一般的な知識を身に付けさせたい。理解が不十分だと思われる生徒については教師と一緒に考えたり、教師が重点的に指導を行ったりしながら、知識を定着させていきたい。また、知識の定着を図ったうえで、

さまざまな欲求やストレスへの対処法などを体育分野と連携させ、実践させながら技能として身に付けさせたい。




- ④ 前時までに学習した知識を活用して、本時は意見交流を行いながら、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。他者の考えに触れる中で、個人によって適切な対処法があることに気付かせ、さまざまな変化に対する最適な対処法を思考・判断させる。また、その際、「なぜその考えになったか」という自己の考えに根拠をもたせた表現ができるような場面を設定し、ストレスへの適切な対処の方法についての考えを深めさせたい。
- ⑤ 身に付けた知識・技能、思考力・判断力・表現力等を活用し、授業後や単元の最後に、「現在の自己の生き方」を振り返り、「これからの自己の生き方」につなげていくような場面を設定する。特に、周囲と違いがあることを踏まえ、正解探しをするのではなく、あくまで生徒個人の判断や選択を大切に、主体的に考えていこうとする態度へとつなげていきたい。
- ⑥ 教科書やワークシート、タブレットなどを活用しながら次のような場面を設定する。
 - 導入
 - ・前時の学習内容の振り返りやループリックを活用した到達目標の確認をする場面
 - ・本時の課題に対する予想をする場面
 - 終末
 - ・本時の学習内容をまとめる場面や振り返りをする場面これらの場面を通して、学習前の自分の姿と学習後の自分の姿がどのように変わったかを実感させたい。
- ⑦ 単元の最後に、学んだことを自分の生活とつなげて考え、具体的な場面や手立て、その効果や結果の予想をワークシートに記述したり、グループで交流したりする場面を設定する。学習したことを生かすことがよりよい生き方につながることを実感させたい。

(2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の生徒へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
 - ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
 - ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ① 発問や例示、イラストなどの提示の際に、口頭のみならず、画像やタブレット端末などを利用し、生徒一人一人が理解しやすい工夫を行う。また、ワークシートの記述やグループワークでの発言などを見取り、困り感を感じている生徒への支援を行うとともに、教師自身の授業改善にもつなげる。
 - ② 書くこと、話すこと、実際に体験することを重視しながら、さまざまな視点から学習し、理解しやすい環境を整える。その中で得た学習の成果を互いに共有する場面を設定することで、生徒が理解し、考えを深められるようにするとともに、生徒自身の今後の自主的な学び方につなげられるようにしたい。
 - ③ 欲求やストレスへの対処法が人によって違うことを押さえ、正解を導き出すのではなく、どの方法がどのような「人に適しているのか、また、その根拠についてもグループで話し合うことで自分たちに適した方法を見つけさせたい。

7 単元の指導計画（2時間）

（1）生徒の学習計画

時数	育成を目指す資質・能力	主な学習内容および学習活動 [] 学習形態 [] 課題 【 】 他教科との関わり	■評価規準 () 評価方法 【 】 研究の視点	ICT の活用
1	知識・技能 思考・判断・表現 言語能力① ②③④⑤⑥ 問題発見・解決能力① ②③④ その他（現代的な課題に対応して求められる資質・能力等） ⑤	1 本時の学習内容を確認する。[協] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">心と体にはどんな関わりがあるか</div> 2 本時の評価を共有する。[協] 3 「課題をつかむ」を読み、自分の考えをまとめ、ワークシートに記入する。[個] ・「心→体に影響する例」と「体→心に影響する例」を発表、共有。 4 「～したい」という形で自分のしたいことを挙げる。[個] 5 欲求不満への対処の仕方について考える。 ・個人で考えをまとめる→グループで交流 [個] [協] 6 本時の振り返りを行う。[個] ・心と体は密接に関係している ・心の健康を保つためには、心身の調和を保つことが必要 7 自己の生き方について考える。 【家庭科との関わり】 【理科との関わり】	■知①（ワークシート） ■思①（ワークシート） 【視点1⑤⑦】 【視点2①③】 【視点1①②③⑤⑥⑦】 【視点2①②③】	 個人やグループでの意見交流のためにプレゼンテーションソフトを使って共有をしながら考えをまとめる。 <u>育成を目指す情報活用能力</u> ①②③⑥
1 本時	思考・判断・表現 学びに向かう力・人間性 言語能力① ②③④⑤⑥ 問題発見・解決能力① ②③④ その他（現代的な課題に対応して求められる資質・能力等） ⑤	1 前時の復習を行う。[個] 2 本時の学習内容を確認する。[協] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ストレスへの対処に必要なものは何だろう。</div> 3 本時の評価を共有する。[協] 4 ストレスについて学習する。[個] 5 ストレスの対処方法について考える。 ・個人で考えをまとめる→グループや全体で交流 [個] [協] 6 自己の生活やキャリアとのかかわりについて具体的にイメージする。[個] 【体育分野との関わり】 7 学習を振り返る。[個] ・ストレスへの対処方法を知り、状況にあった方法で対処することが必要	■思①（発表） ■主①（ワークシート、発表） 【視点1①④⑥】 【視点2②④】	 自分の考えを記録するために、文書作成ツールを活用するのと同時に、互いの考えを共有するために、プレゼンテーションソフトを活用する。  <small>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</small> 情報の幅を広げるためにインターネットなどを利用し、ストレスへの対処方法を調べる。 <u>育成を目指す情報活用能力</u> ①②③⑥

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	その他(現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力等)
知識・技能		① 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能		⑤ 心身の健康の保持増進に関する教育
思考・判断・表現	① 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力 ② 他者とのコミュニケーションを図る力	② 問題解決・探究における情報を活用する力 ③ 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造	① 物事から問題を見いだす力 ② 問題を定義する力 ③ 問題の解決の方向性を決定する力 ④ 解決方法を探して、計画を立てる力	
学びに向かう力・人間性等	③ 言葉を通じて自分のものの見方・考え方を広げようとする態度 ④ 集団としての考えを発展・深化させようとする態度 ⑤ 体験したことや感じたことを言葉にしたり、それらを交流させたりしながら心を豊かにしようとする態度 ⑥ 互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度	⑥ 問題解決・探究における情報活用の態度		

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	社会	数学	理科	音楽	美術
			理科 2 年「呼吸の働き」「血液の働き」		
保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動
A 体づくり ア体ほぐしの運動	家庭「幼児の体の発達」 家庭「幼児の心の発達」				

8 本時の実際


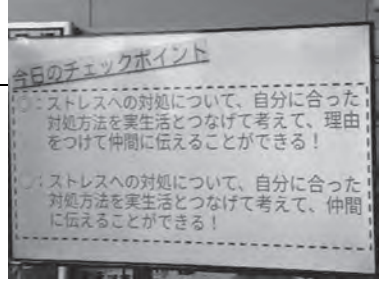

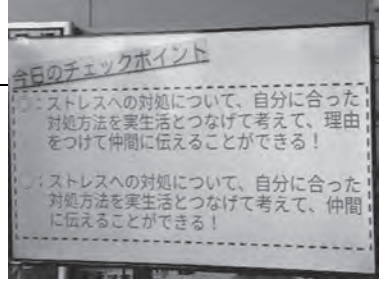
(1) 本時の目標







ストレスへの対処について、自分に合った対処方法を実生活と結びつけながら模索するとともに、それらを他者へ表現している。(思考力・判断力・表現力)

(2) ルーブリック (評価基準)

評価基準	生徒の学習状況
◎「十分満足できる」状況	ストレスへの対処について、自分に合った対処方法を、実生活と結びつけながら模索し、それらの根拠を示しながら他者へ表現することができる。
○「おおむね満足できる」状況	ストレスへの対処について、自分に合った対処方法を、実生活と結びつけながら模索し、それらを他者へ表現することができる。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	グループ交流や他者の発表に触れて、自己に合うストレス対処法を考えさせて、ワークシートに書かせる。

(3) 本時の展開 (2/2)

過程 (分)	○主な学習活動【 】活動形態 ・予想される生徒の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要する生徒への手立て
導入 (10分)	<p>○前時の学習を振り返る。 ・心と体は密接に関係している ・心の健康を保つためには、心身の調和を保つことが必要</p> <p>○学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ストレスへの対処に必要なものは何だろう。 </div> <p>○現段階での考えを発表する。</p> <p>○ルーブリックを提示する。</p> <p>○本時の学習内容を押さえ、見通しをもつ。</p>	<p>◇前時に学習した欲求不満について復習をする。</p> <p>◇現段階での知識の把握。</p> <p>◇ルーブリックを共有し、学習の見通しをもたせる。</p>	<p>【視点(1)⑥】</p>  <p>【視点(1)①】</p> 
展開 (30分)	<p>○ストレスとストレスサーについて確認する。</p>  <p>○ストレスを感じる場面について、ワークシートに記入し発表する。</p>	<p>◇「嫌なもの」と思われがちだが、適度なストレスは心身を発達させるうえで必要。</p> <p>◇これまでにストレスを感じた場面を想起させる。</p>	<p>【視点(1)①】</p> 

	<p>○ストレスの対処方法について、個人で調べ、考えをまとめる→グループ交流</p>  <p>○自分に合った対処方法を考える。</p> 	<p>◇インターネットなどを利用し、ストレスへの対処方法を調べる。</p>  <p>◇スライド機能を活用し、手軽に意見交流ができるようにする。</p>  <p>◇ストレスを感じやすい場面を振り返りながら、自分に合った対処方法を見つける。</p> <p>◇スライド機能を活用し、自分の考えと他者の考えを交流する。</p> 	<p>▲調査活動が進まない生徒には、調べるキーワードを伝えたり、近くの友達の活動を参考にしたりするよう促す。</p> <p>▲他のグループのスライドを閲覧できるようにし、多くの意見に触れられるようにする。 【視点(2)②】</p> <p>■ストレスへの対処について、自分に合った対処方法を実生活と結びつけながら模索するとともに、それらを他者へ表現している。(思考・判断・表現)</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>○振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処方法を知り、自分にあった方法で対処することが必要 <p>○学習した内容をワークシートへ記入する。</p>	<p>◇原因や状況によってストレスへの向き合い方は異なり、さまざまな対処方法を選択する必要がある。</p>	

1 単元名 物語の魅力を見つけて書こう ～きつねの窓～

2 単元の目標

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 【知識・技能】 (1) オ
- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 C (1) エ
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 C (1) オ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元で取り上げる言語活動

『きつねの窓』の魅力が伝わる書評を書く。(関連：思考力・判断力・表現力等) C (2) ア)

4 単元の評価規準(具体的な内容のまとめりごとの評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとしている。

5 教材について

教材文「きつねの窓」は「日常(現実)世界」と「不思議な(非現実)世界」を行き来する「ファンタジー」の構造をもった物語である。中心人物である「ぼく」は、非現実の世界でききょうで青く染めた指で窓をつくると、「自分の過去の大切な記憶に基づいた世界が見られる」という不思議な「窓」を子ぎつねから見せられる。「ぼく」は、その窓に魅了され、猟師にとって大切な銃と引き換えに自分の指を染めてもらうが、現実の世界に戻ってくると、うっかりして自分の指を洗ってしまい、「窓」を失ってしまう。その後、もう二度と子ぎつねに会うことは叶わないのである。

一般的に、非現実世界を通して中心人物の生き方に変化が見られるのがファンタジーの大まかな特徴である。本単元では、学習指導要領と本教材の特徴を照らし合わせ、本教材の〈「ファンタジー」の構造の面白さ〉〈中心人物の人物像〉〈非現実世界で手に入れた「窓」が物語に与える影響(役割)〉を「3つの魅力」とし、これらに注目しながら、人物像や物語の全体像を具体的に想像させたり表現の効果を考えたりすることを通して、目標の達成に迫りたい。

また、言語活動については、本教材で学んだ3つの魅力を中心に、本教材を共通図書として書評を書く言語活動を行う。設定理由としては、後述する通り書くことに苦手意識をもっている児童が一定数いることから、次単元「書評を書いて話し合おう」に向けた学びの準備として位置付けることで、文章を通して学んだことや感じたことなどといった自分の考えをまとめる力を高めるとともに、書評を書く力も高めるという相乗効果が見込めると考えたためである。

6 児童の実態

本学級の児童は明るく活発である。最高学年として様々な教育活動に取り組むことを通して、友達と協力したり、自分のやるべきことに責任をもって取り組んだりすることができるようになってきた。

学習に対する意欲や学習内容の定着には個人差があるが、友達と協働的に学習を進める機会を多く設定し、互いに教え合ったり、調べた内容を共有し合ったりする活動を通して、学ぶことの楽しさを感じながら学習理解を深められるような授業づくりを心がけている。ICT 機器（タブレット端末）の活用については、ほとんどの児童が操作に慣れており、日常的にインターネット検索で調べ学習をしたり、AI ドリルで既習事項の復習を行ったりしている。授業中は Microsoft Teams のチャット機能を活用してノートの写真を友達と共有したり、文書作成ソフト（Word）やプレゼンテーションソフト（PowerPoint）で共同編集をしてグループごとに考えをまとめたりしている。

国語科の「読むこと」においては、日常的な読書経験が少ないこともあり、文章の内容理解には時間がかかるが、文章に線を引くなどさせて叙述に着目させながら学習を進めることで、文章の内容を理解したり、文章中から根拠を見つけて自分の考えをもったりすることができるようになってきた。「書くこと」においては、課題を理解して進んで書き進められる児童がいる反面、多くの児童が苦手意識をもっており、書き始めるのに時間がかかる。そのため、毎時間の学習の中で単元のゴール（言語活動）を常に意識させるとともに、「書くこと」の指導をする際は、一斉指導の中で書き方の型をある程度提示し、スムーズに学習に取り組むことができるよう心がけている。

そこで、本単元では『きつねの窓』の書評を書くという言語活動を設定する。物語の魅力を読み取り、書評を書く活動を通して語彙を豊かにするとともに、「読むこと」「書くこと」双方の力を高めていきたい。また、書評を書く活動を次単元「書評を書いて話し合おう」につなげ、自分の好きな図書を選び、紹介することで読書習慣の素地としたい。

7 研究の視点との関わり

（1）視点1 個別最適な学び

- ①教師の丁寧な見取り（指導と評価の一体化）
- ②学習計画（学習の見通し）
- ③知識・技能の確実な習得（習得）
- ④思考力・判断力・表現力等の育成に向けた知識・技能の活用（活用）
- ⑤学びに向かう力・人間性等の涵養に向けた探求的な学び（探究）
- ⑥自身の変容や成長の自覚（学習の振り返り）
- ⑦自己のキャリアとのつながり（キャリア形成）

① 教科書やノート、タブレット端末等を使って自分の考えを表現する活動を設定することで、児童の学習状況を適切に把握していく。また、児童が本時のゴールを理解して学習に取り組んだり、客観的に自己の学習状況を把握したりすることができるよう、ルーブリックを提示して児童と共有し、指導と評価の一体化を図る。併せて、ルーブリックに照らし合わせながら学習につまずいている児童の様子を教師が見取り、適宜指導することで、全員が本時のゴールを達成できるようにする。

- ② 単元の初めに、次単元を含めた本単元の言語活動や進め方の大まかな見通し、単元を通して身に付ける資質・能力を単元の評価規準を共有しながら全体で確認する。その際、「書評とは本や作品を他の読者に紹介するための文章であること」「書評を書くためには物語の魅力を伝える必要があること」「物語の魅力を伝えるには、物語のあらすじだけではなく、登場人物の人物像や表現の効果などに着目して読む力を高める必要があること」といった形で、本単元を通してどのような力を身に付けてほしいのかが児童に伝わるよう具体的に確認する。その上で教材文を通読することで、本単元では書評を書くために物語の魅力を読み取る必要があること、その魅力とは、〈「ファンタジー」の構造の面白さ〉〈中心人物の人物像〉〈非現実世界で手に入れた「窓」が物語に与える影響（役割）〉の3つであることを児童に気付かせる。その後、児童から出された案を基に学習計画を立てさせることで、主体的に学習を進めようとする態度の育成を目指す。
- ③ 本単元で身に付ける知識及び技能は「思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」である。そこで、国語辞典やインターネットを使って適宜調べさせた言葉の意味を、クラウド上の「マイ国語辞典」に記録させる。その上で、蓄積した語句を活用して書評を書くよう指導する。また、グループ交流でお互いの考えを共有する中で、語感や言葉の使われ方・使い方を意識させることで、語彙を豊かにしていく。書評を書く際も、自分の伝えたいことを表現するために適切な言葉は何かを、「マイ国語辞典」の記録や友達と考えを共有した際に出てきた語句の中から吟味させて使わせることで、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識させ、さらに語彙を豊かにしていく。教師の見取りの中で理解が不十分だと思われる児童については、教師が語句の意味を教えたり、重点的に指導を行ったりしながら、確実に知識・技能を習得できるよう寄り添っていく。
- ④ 本単元で身に付ける思考力、判断力、表現力等は、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」である。そこで、2～5時間目には、叙述を基に人物像や物語の全体像を想像して読み、『きつねの窓』の3つの魅力をキーワードで表す活動を設定する。中心人物の言動や様子から人物像を想像したり、ファンタジーの構成を考えながら物語の全体像を捉えたりするだけではなく、比喩表現や色による表現の効果など、物語がもつ世界観も感じさせながら、読みを深めさせていく。また、6・7時間目には、『きつねの窓』の書評を書く活動を設定する。単に学んだことを活用して書評を書くのではなく、物語の魅力を伝えるためにどのような語句や表現を使うとよいのかを考え、友達と共有する中で自分の考えと照らし合わせて吟味し、自分の考えを確固たるものにしていくことで、物語を読んで感じた自分の考えをまとめる力を育む。
- ⑤ 単元の最後に『きつねの窓』の書評を書いた後、次単元「書評を書いて話し合おう」では、本校の1・2年生におすすめしたい図書の書評を書く活動を行う。本単元で学習したことを活用し、自分が選んだおすすめしたい図書の書評を書くという見通しをもたせることで、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、下級生に伝わる書評を意識して書かせることで、本単元での自らの学びを還元できる喜びを感じられるようにする。
- ⑥ 毎時間の導入で本時の課題やルーブリックを確認する機会を保障し、終末では本時の学習をまとめたり振り返ったりする場面を設定することで、学習の成果を実感させる。また、単元を通じた自身の成長を自覚させるために、単元の初めに初発の感想とともに書評を書くために使いそうなキーワードを考えさせ、単元の最後に書いた書評と比べさせることで、自身の成長を自覚できるようにする。

- ⑦ 単元の最後に単元全体の自己の取組を振り返り、次単元「書評を書いて話し合おう」で意識したいことや挑戦したいことを考えさせ、学習に対する意欲付けを図る。また、語感や物語の魅力を感じながら物語を読み進めることで読書の面白さを実感させ、読書への意欲付けを図り、読書習慣の素地とするとともに、日常における自分の考えを伝える場面での活用へとつなげていきたい。

(2) 視点2 協働的な学び

- ①教師の生徒へのかかわり（子供たちを支える伴走者としての教師の役割）
- ②学び合いによる考えの広がりや深まり（学習の成果の共有）
- ③課題解決に向けた協働的な学び（最適解・納得解を導き出す協働的な学び）
- ④学校の特色に応じた活動（地域の資源を生かした体験活動や異年齢間の共有）

- ① 毎時間の学習が単元の言語活動にどのように生かされるのかを常に意識させることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう促す。また、主体的・協働的に学習に取り組むことができるよう、ICTを活用して以下のような学習場面を設定する。



- ・語彙を豊かにするための検索機能の活用
- ・よりたくさんのお意見に触れるためのチャット機能を活用した情報共有やプレゼンテーションソフトを活用した共同編集
- ・文書作成ソフトを使っての書評を書く活動とその共有




これらの学習活動の中で、児童に見られる気付きやつまづきを丁寧に見取りながら、必要に応じて語彙の意味を説明し理解させたり、言葉の使われ方がどのような効果をもたらすかなどといったことを考えさせたりしながら、それぞれの児童に適切な支援・指導を行っていきたい。また、ICTの活用が難しい児童については、文書作成ソフトを使わずにノートに書いてもよいことにするなど、自分の取り組みやすい方法で取り組むよう指導していく。


- ② 単元を通して、それぞれの考えをグループや学級全体で共有する活動を設定する。各自が深めた学習の成果を持ち寄って共有することで、自分の考えを広げたり深めたりすることはもとより、物事を多面的・多角的に考えようとする態度へとつなげていく。
- ③ 毎時間、児童同士で考えを共有し合う活動を取り入れ、自身の考えを深めさせる。特に単元の2～5時間目に行う、書評を書くためのキーワードを考える活動では、個人思考で考えたことをグループごとに共有し、グループとしての考えをまとめさせる活動を通して語彙にこだわらせることで、語彙を豊かにしたり、物語の内容理解を深めたりする。さらにそれらを学級全体で共有した上で、書評を書くために使えるようなキーワードをそれぞれが考えることで、協働的な学びを通じた課題解決を図りたい。
- ④ 次単元「書評を書いて話し合おう」で、冬休みの図書貸し出しに向けて1・2年生におすすめしたい図書の書評を書く学習活動を設定する。「自分の書評を基に本を手にとってもらう」という意識をもたせることで、学習意欲の向上を図るとともに、自身の学習の成果が下級生へと還元される経験を通して、自己肯定感の育成を目指したい。



8 単元の指導計画（8時間）



（1）児童の学習計画

時数	育成を目指す資質・能力	主な学習内容および学習活動 [] 学習形態 [] 課題 [] まとめ 【 】 他教科との関わり	■評価規準 () 評価方法 【 】 研究の視点	ICT の活用
計 画	知識・技能 言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑧⑨⑩ 問題発見・ 解決能力 ①②③④	1 書評について学び、単元のゴールを確認する。 [協] ・書評とは「本や作品を他の読者に紹介する文章」であることを確認する。 ・冬休みの図書貸し出しに向けて、低学年におすすめしたい図書の書評を書くという見通しをもつ。 ・書評を書くためには物語の話のあらすじや印象に残ったところ（魅力）を伝える必要があること、物語の魅力伝えるには、物語のあらすじに加え、登場人物の人物像や表現の効果などに着目して読む力を高める必要があることをおさえる。 2 単元の目標や評価基準（ルーブリック）を確認する。[協] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【単元で取り上げる言語活動】 『きつねの窓』の魅力伝える書評を書こう。 </div> 3 物語を通読し、内容を把握する。[協] ・わからない言葉に印をつけながら読み進め、通読後に調べてマイ国語辞典に追加する。 4 登場人物や中心人物について確認する。[協] 5 初発の感想を書く。[個] 6 現段階で書評を書くときに使えるようなキーワードを考え、全体で共有する。[個] [協] 7 学習計画を立て、学習の流れを確認する。[協] 【国語との関わり①③】 【特別活動との関わり①】	■主① （発言、ノート） ■知① （発言、ノート） 【視点1①②⑥】 【視点2①④】	 B2 調査活動 語彙を豊かにするためにインターネットの検索機能を使って、語句の意味を調べる。  C1 発表や話し合いよりたくさんの意見に触れるために、チャット機能を使って情報を共有する。 <u>育成を目指す情報活用能力</u> ①②③④⑤

<p>習得・活用</p>	<p>1</p> <p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩</p> <p>問題発見・解決能力 ③④⑤⑥</p>	<p>「ファンタジー」の構成を知ろう。</p> <p>1 ファンタジーの構成について理解する。 ・現実世界と非現実世界を行き来する構成を「ファンタジー」と呼ぶこと、ファンタジーには入口と出口があること、ファンタジー要素をもつ物語では中心人物が非現実世界を通して変容することが多いことをおさえる。[協]</p> <p>2 ファンタジーの入口と出口はどこになるか考える。[個][協] ・一人で考える、友達と一緒に考えるなど、自分の学びやすい方法で考えさせる。 ・わからない言葉は適宜調べ、マイ国語辞典に追加する。</p> <p>3 グループで共有し、グループとしての考えをまとめる。[協] ・プレゼンテーションソフトの共同編集機能を使って、グループとしての考えをまとめる。</p> <p>4 学級全体で共有し、ファンタジーの入口と出口を確認する。[協] ・プレゼンテーションソフトを使ってグループごとの考えを学級全体で共有する。 ・「ふと、空がとてもまぶしいと思いました。」「まるで、みがき上げられた青いガラスのように…」など、表現の効果にも触れる。</p> <p>5 本時の学習の中で、書評を書くときに使えるようなキーワードを考えてノートに書き、全体で共有する。[個][協]</p> <p># ファンタジー # 非現実世界 # 入口と出口 # 道 # 青いガラス玉 など</p> <p>6 本時の学習を振り返る。[個]</p> <p>7 「ぼく」は非現実世界を通して変容が見られるか予想し、次時の学習への見通しをもつ。[協] 【国語との関わり①】 【道徳との関わり①②③】</p>	<p>■知① (発言、ノート)</p> <p>■思① (ノート)</p> <p>【視点1③④⑥】 【視点2①②③】</p>	 <p>B2 調査活動 語彙を豊かにするためにインターネットの検索機能を使って、語句の意味を調べる。</p>  <p>C2 協働での意見整理 C3 協働制作 よりたくさん意見に触れるために、プレゼンテーションソフトを使って共同編集を行い、グループの意見を整理したり、情報を共有したりする。 育成を目指す情報活用能力 ①②③④⑤</p>
<p>習得・活用</p>	<p>2</p> <p>知識・技能 思考・判断・表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤</p>	<p>「ぼく」の人物像を読み取ろう。</p> <p>1 「ぼく」の人物像がわかる文(行動や会話)を全文から見付け、線を引く。[個] ・一人で考える、友達と一緒に考えるなど、自分の学びやすい方法で考えさせる。</p>	<p>■知① (発言、ノート)</p> <p>■思① (教科書、ノート)</p> <p>【視点1③④⑥】 【視点2①②③】</p>	 <p>B2 調査活動 語彙を豊かにす</p>

	<p>⑥⑦⑧⑨⑩ 問題発見・ 解決能力 ③④⑤⑥</p>	<p>2 線を引いたところから想像した「ぼく」の人物像をキーワードに表す。[個]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で考える、友達と一緒に考えるなど、自分の学びやすい方法で考えさせる。 ・わからない言葉は適宜調べ、マイ国語辞典に追加する。 <p>3 「ぼく」の人物像をグループで共有し、グループとしての考えをまとめる。[協]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトの共同編集機能を使って、グループとしての考えをまとめる。 <p>4 学級全体で共有し、「ぼく」の人物像を確認する。[協]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使ってグループごとの考えを学級全体で共有する。 ・「とうんでもない。」と「とんでもない」の違いや、「鉄砲？そりゃちょっと……。」の「……」に隠された言葉を考えさせるなどして、表現の効果にも触れる。 ・人物像を表す言葉と心情を表す言葉が混同している場合は、その違いを明確にする。 <p>5 本時の学習の中で、書評を書くときに使えるようなキーワードを考えてノートに書き、全体で共有する。[個][協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p># 猟師 # 独りぼっち # ずるがしこい # 疑い深い # 子ぎつねに共感 など</p> </div> <p>6 本時の学習を振り返る。[個]</p> <p>7 「ぼく」の心情が非現実世界を通して変化したことに気付かせ、そのきっかけが「窓」であることをおさえ、「窓」が物語にどのような影響を与えているのかを予想し、次時の学習への見通しをもつ。[協]</p> <p style="text-align: center;">【国語との関わり①】 【道徳との関わり①②③】</p>	<p>るためにインターネットの検索機能を使って、語句の意味を調べる。</p>  <p>C2 協働での意見整理 C3 協働制作</p> <p>よりたくさんの意見に触れるために、プレゼンテーションソフトを使って共同編集を行い、グループの意見を整理したり、情報を共有したりする。</p> <p>育成を目指す情報活用能力 ①②③④⑤</p>
--	--	--	---

<p>習得・活用 (本時)</p>	<p>1 知識・技能 思考・判断・表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩</p> <p>問題発見・ 解決能力 ③④⑤⑥</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、「ぼく」の心情が「窓」によって変化したことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「窓」の役割を考えよう。</p> </div> <p>2 窓から見えたものは何か整理し、見えるものの共通点を考える。[協]</p> <p>3 「ぼく」が窓を手に入れたときと、失ったときの心情を考える。[個]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で考える、友達と一緒に考えるなど、自分の学びやすい方法で考えさせる。 ・わからない言葉は適宜調べ、マイ国語辞典に追加する。 <p>4 グループで共有し、グループとしての考えをまとめる。[協]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトの共同編集機能を使って、グループとしての考えをまとめる。 <p>5 学級全体で共有し、「窓」にはどんな役割があるのか考える。[協]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使ってグループごとの考えを学級全体で共有する。 ・「ぼくは、すっかり感激して、何度もうなずきました。」「もらったなめこを食べるのも忘れて」といった表現にも着目させる。 <p>6 本時の学習の中で、書評を書くときに使えるようなキーワードを考えてノートに書き、全体で共有する。[個][協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p># 今はもうなくなったもの</p> <p># 自分が大切にしていたもの</p> <p># 「ぼく」の気持ちを変化させたもの など</p> </div> <p>7 本時の学習を振り返る。[個]</p> <p style="text-align: right;">【国語との関わり①】 【道徳との関わり①②③】</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>	<p>■知① (発言、ノート)</p> <p>■思① (ノート)</p> <p>【視点1③④⑥】 【視点2①②③】</p>	 <p>B2 調査活動 語彙を豊かにするためにインターネットの検索機能を使って、語句の意味を調べる。</p>  <p>C2 協働での意見整理 C3 協働制作 よりたくさんの意見に触れるために、プレゼンテーションソフトやチャット機能を使って共同編集を行い、グループの意見を整理したり、情報を共有したりする。 育成を目指す情報活用能力 ①②③④⑤</p>
	<p>活用</p>	<p>1 知識・技能 思考・判断・表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩</p> <p>問題発見・ 解決能力 ③④⑤⑥</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書評を書くためのキーワードを整理しよう。</p> </div> <p>1 これまで書いてきたキーワードを確認する。[協]</p> <p>2 自分が書評を書くときに活用したいキーワードを洗い出す。[個]</p> <p>3 友達と共有し、活用するキーワードを整理する。[協]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p># 「ぼく」 # 子ぎつね # ファンタジー</p> <p># 子ぎつねに対する心情の変化</p> <p># 窓 # 今はもうないもの など</p> </div>	<p>■知① (発言、ノート)</p> <p>■思② (ノート)</p> <p>【視点1③④⑤⑥】 【視点2①②】</p>

		<p>4 学級全体で共有する。[協]</p> <p>5 本時の学習を振り返る。[個]</p> <p>【国語との関わり①②③】</p> <p>【道徳との関わり①②③】</p>		<p>報を共有したりする。</p> <p>育成を目指す情報活用能力 ②③④⑤</p>	
活用	1	<p>知識・技能 思考・判断・ 表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩</p> <p>問題発見・ 解決能力 ③④⑤⑥</p>	<p>『きつねの窓』の魅力を伝える書評を書こう。</p> <p>1 前時で整理したキーワードをもとに、文書作成ソフトを使って書評を書く。[個]</p> <p>2 本時の学習を振り返る。[個]</p> <p>【国語との関わり①②③④】</p> <p>【道徳との関わり①②③】</p>	<p>■知① (ワークシート)</p> <p>■思② (ワークシート)</p> <p>【視点1③④⑤⑥】</p> <p>【視点2①】</p>	 <p>学習内容を振り返り、活用するために、これまで作成してきたプレゼンテーションソフトから必要な情報を選択し、文書作成ソフトを使って書評を書く。</p> <p>育成を目指す情報活用能力 ②③④⑤</p>
自覚	1	<p>知識・技能 思考・判断・ 表現</p> <p>言語能力 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩</p> <p>問題発見・ 解決能力 ③④⑤⑥</p>	<p>書評を読み合い、感想を伝え合おう。</p> <p>1 友達の書評を読み、付箋紙に感想を書く。[個] [協]</p> <p>2 友達からもらった感想を読んだり、単元の最初に書いた自分の書評と比べたりしながら、自分の書評を振り返る。[個]</p> <p>3 本単元の学習を通してどんな力がついたのかを共有する。[協]</p> <p>・「叙述から物語の全体像をとらえることができるようになった」「語感や表現の効果を意識して読むことができるようになった」など、これまでの学習でどんな力が身に付いたのかを考えさせる。</p> <p>・本単元で身に付いた力が、他教科の学習や日常生活でも生かすことができることに気付かせる。</p> <p>4 単元の学習を振り返り、次単元の見通しをもつ。[個]</p> <p>【国語との関わり①⑤】</p> <p>【道徳との関わり①②③④】</p> <p>【特別活動との関わり①】</p>	<p>■知① (ノート、ワークシート)</p> <p>■思② (ノート、ワークシート)</p> <p>■主① (振り返りの記述)</p> <p>【視点1⑤⑥⑦】</p> <p>【視点2②③④】</p>	 <p>C1 発表や話し合いよりたくさんの意見に触れるために、チャット機能を使って情報を共有する。</p> <p>育成を目指す情報活用能力 ②③④⑤</p>
～以下の学習活動は次單元「書評を書いて話し合おう」で行う～					
探究		<p>1・2年生におすすめしたい本の書評を書こう。</p> <p>1 あらかじめ選んだ本の魅力を考える。[個]</p> <p>2 本の魅力を伝えるためのキーワードを洗い出し、整理する。[個]</p> <p>3 書評を書く。[個]</p> <p>4 共有し、感想を伝え合う。[協]</p> <p>5 図書室前に掲示する。[協]</p>			

(2) 教科等横断的な学習

	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力
知識・技能		① 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	
思考・判断・表現	① 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力 ② 言葉によって感じたり想像したりする力 ③ 感情や想像を言葉にする力 ④ 言葉を通じて伝え合う力 ⑤ 考えを形成し、深める力	② 問題解決・探究における情報を活用する力 ③ 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造 ④ 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用	① 物事から問題を見いだす力 ② 問題を定義する力 ③ 問題の解決の方向性を決定する力 ④ 解決方法を探して、計画を立てる力 ⑤ 結果を予測しながら実行する力 ⑥ 過程を振り返って次の問題発見・解決につなげていく力
学びに向かう力・人間性等	⑥ 言葉を通じて自分のものの見方・考え方を広げようとする態度 ⑦ 集団としての考えを発展・深化させようとする態度 ⑧ 体験したことや感じたことを言葉にしたり、それらを共有させたりしながら心を豊かにしようとする態度 ⑨ 互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 ⑩ 言語文化の担い手としての自覚	⑤ 問題解決・探究における情報活用の態度	

(3) 関連する各教科の資質・能力

国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育
①話すこと・聞くこと(1)オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめること。 ②書くこと(1)ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ③書くこと(1)ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ④書くこと(1)オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⑤書くこと(1)カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。							
外国語	道徳				総合的な学習の時間		特別活動
	①希望と勇気、努力と強い意志 より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。 ②友情、信頼 友達とたがいに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。 ③相互理解、寛容 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。 ④よりよい学校生活、集団生活の充実 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。						①学校図書館の利用

9 本時の実際



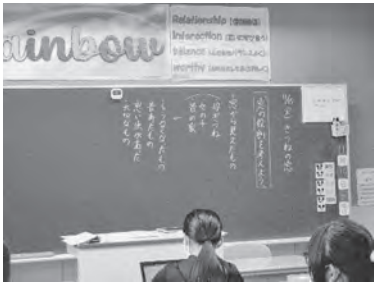
(1) 本時の目標

- ・ 叙述から「窓」が物語に与える役割を考えて物語の全体像を想像し、自分の考えをまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等】

(2) ルーブリック（評価基準）

評価基準	児童の学習状況
◎「十分満足できる」状況	「ぼく」の心情や文章中の表現を基に「窓」の役割について考え、物語の全体像を想像し、友達と共有した考えも踏まえながらノートに自分の考えをまとめることができる。
○「おおむね満足できる」状況	「ぼく」の心情や文章中の表現を基に「窓」の役割について考え、物語の全体像を想像し、ノートに自分の考えをまとめることができる。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	グループの話し合いの中で共感できる考えを見つけさせ、ノートに自分の考えを書かせる。

(3) 本時の展開（5／8）

過程 (分)	○主な学習活動【 】活動形態 ・予想される生徒の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要する児童への手立て
導入 (5分)	○前時の学習を振り返る。 ○学習課題を設定する。 「窓」の役割を考えよう。 ○ルーブリックを提示し、本時の学習の見通しをもつ。	◇「ぼく」の心情が、非現実世界で手に入れた「窓」を通して変化したことを想起させる。 ◇ルーブリックを確認し、本時の学習の見通しをもたせる。	 【視点(2)①】
展開 (35分)	○窓から見えたものは何か整理する。[協] ・子ぎつね →亡くなった母ぎつね ・ぼく →二度と会えない女の子 →すでになくなった昔の家 ○窓から見えるものの共通点を考える。[協] ・今はもうなくなったもの ・自分が大切にしていたもの ・もう一度見たいと思ったもの	*登場人物によって、窓から見えたものは異なることを確認する。 ◇語彙を豊かにするために、わからない言葉はインターネットの検索機能を使って、語句の意味を調べさせる。 	 【視点(1)③④】 ▲文章中の叙述に着目させ、窓から見えるものは、今はもうなくなったものであることに気付かせる。

○「ぼく」が窓を手に入れる前と、手に入れた後の心情を考える。[個]

○グループで共有し、グループとしての考えをまとめる。[協]

○グループとしての考えを学級全体で共有し、「窓」にはどんな役割があるのか考える。[協]

- ・はじめは子ぎつねをしとめようとしていたが、窓を手に入れたことで、その気持ちはなくなった。
- ・子ぎつねと会うまでは独りぼっちだったが、窓を手に入れたことで、独りぼっちではなくなった。

○本時の学習の中で、書評を書くときに使えるようなキーワードを考え、共有する。[個][協]

#今はもうなくなったもの
#自分が大切にしていたもの
#「ぼく」の気持ちを変化させたもの

◇一人で考える、友達と一緒に考えるなど、自分の学びやすい方法で考えさせる。

◇グループでの共有に向けて、プレゼンテーションソフトに入力させる。

◇プレゼンテーションソフトを使って共同編集を行い、グループの意見を整理させる。



◇プレゼンテーションソフトに整理したことを基に、グループごとにまとめた考えを発表させ、情報を共有する。



*「ぼくは、すっかり感激して、**何度もうなずきました。**」「もらったなめこを食べるのも忘れて」といった表現にも着目させる。

* 題名にも入っている「窓」が、物語において「ぼく」の心情を変化させたことに気付かせる。

◇ノートに書いた自分の考えを写真で撮影し、チャット機能を活用して共有させ、自由に友達と考えを共有できるようにする。



▲前時の学習を想起させ、「窓」を手に入れる前後で「ぼく」の心情はどのように変化したのかを考えるよう促す。

【視点（２）②③】



【視点（２）②③】



【視点（１）③④】

【視点（２）②③】

■「窓」の効果について、叙述を基に想像したり、友達の考えを参考にしたりしながら、自分の考えをまとめている。（ノート）

IV 成果と課題



視点1 個別最適な学び

視点2 協働的な学び

研究の成果と課題について

留萌管内教育研究所では、第10次共同研究の研究課題を「『個別最適な学びと、協働的な学び』の一体的な充実の実現に向けた実践的研究～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～」と設定し、研究を進め、今年度は提案授業1本と検証授業2本を行った。

各視点の成果と課題について、以下のように明らかにすることができた。

視点1 個別最適な学び

成果

- 一人一台端末を活用して、教師から提示されたルーブリックや学習資料、友達の意見等を自分のタイミングで見直すことができる状態にすることで、自分のペースで学習を進めることが可能となり、学習に粘り強く取り組む姿や学習を調整しようとする姿へとつながっていた。
- 教師から提示された学習方法ではなく、一人で学習を進めるか、友達と相談しながら学習を進めるか、ノートを使用するか、端末を使用するかなど、学習方法を子ども自身が自然に判断して取り組むことは、自分の学びを自分で進めていこうとする主体的に学習に取り組む態度へとつながっていた。

課題

- 昨年度の反省同様、それぞれの児童生徒にとって最適な学習方法を見付けることは難しいと感じた。すぐに最適な学習方法の答えを求めるのではなく、様々な学習方法をたくさん経験したり、自分で学習方法を選択する機会を増やしたりしながら、時間をかけて徐々に見付けさせていく必要がある。

視点2 協働的な学び

成果

- ICTを活用することで、多くの意見を瞬時に共有することが可能になり、他者の意見を参考にすることや意見を比較することへとつながっていた。また、同時編集をすることは、意見の共有や整理だけでなく、子ども同士の自然な話し合いを促す手立てとなっていた。
- ICTを活用しながら互いの意見を説明し合うことで、自身の考えを分かりやすく表現しようとする姿をみることができた。また、ICTを活用して、友達同士で評価したりされたりすることは、より多くの意見に触れることや、新たな視点への気づき、学びの深まりへとつながっていた。

課題

- 一人一台端末によって、これまではできなかったことができるようになり、授業改善へとつなげることができた。今後は、個でそれぞれ考えたことを全員で共有するとともに、共有して得られた学びの成果が再び個に返り、学習の成果をすべての子どもが実感するような手立てや場面の充実が必要である。

参考文献リスト

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 文部科学省
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申） 令和3年1月26日中央教育審議会
- 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版） 文部科学省初等中等教育局教育課程課
- 指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 令和2年3月 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について 令和2年9月 文部科学省
- 北海道教育委員会 ICT活用授業指針～「学びの深化」「学びの転換」へのチャレンジ～ 令和2年8月北海道教育委員会
- 令和2年度小学校教育課程編成の手引 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施～「主体的・対話的で深い学び」の実現～ 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 令和2年度小学校教育課程編成の手引 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 小学校新学習指導要領改訂の要点 一般財団法人総合初等教育研究所 ぶんけい2017年
- 研究紀要 第24号・第25号・第26号 留萌管内教育研究所
- 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」（第2回・参考資料）パフォーマンス評価とは何か 平成25年1月21日西岡加名恵
- 新潟大学教育学部附属新潟小学校初等教育研究会 新学習指導要領における学習評価の在り方―「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価 2020年2月7日 西岡加名恵
- 研究紀要第77集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現 令和2年2月新潟大学教育学部附属新潟小学校 初等教育研究会
- 研究紀要第78集 変える力を高める授業 令和2年2月新潟大学教育学部附属新潟小学校 初等教育研究会
- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について 文部科学省国立教育政策研究所2020年6月
- 要覧「るもいの教育」―令和3年度（2021年度）版― 北海道教育庁留萌教育局
- 小学校学習指導要領 小学校・総合的な学習の時間 改訂のポイントと指導の改善・充実 文部科学省 渋谷一典 NITS 独立行政法人教職員支援機構
- キャリア教育の実践 筑波大学 藤田晃之 NITS 独立行政法人教職員支援機構
- 「令和の日本型学校教育」を語る～一人一人の子供を主語にする学校教育とは～ 令和3年3月27日（土）戸田市教育委員会 教育長戸ヶ崎 勤

- 教科横断的な学びに関する一研究
島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ 共同研究
 - 教科等横断的な視点での教育課程の編成 令和元年9月3日 大分県教育庁義務教育課 瀧口忍
 - 情報活用能力を育成する教科等横断的な教育課程の編成 令和2年7月 大分県教育庁義務教育課
 - 初等教育資料 2019年5・12月号 2020年10・11・12月号
2021年1・2・12月号 2022年1月号
- 文部科学省 東洋館出版
- 学校の大問題 これからの「教育リスク」を考える 2020年11月15日 石川一郎 SB新書
 - 2020年からの新しい学力 2019年9月6日 石川一郎 SB新書
 - 最新教育動向2021 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120
2021年1月 教育の未来を研究する会 明治図書
 - 流行に踊る日本の教育 2021年1月10日 石井英真 東洋館出版
 - アクティブラーニング実践の手引きー各教科で取り組む「主体的・協働的な学び」
2016年4月1日 田中博之 教育開発研究所
 - [図解] 授業づくりの設計図 2020年7月10日 澤井陽介 東洋館出版社
 - 資質・能力を育成する授業づくりー指導と評価の一体化を通してー
2021年3月16日 田中保樹・三藤敏樹・高木展郎 東洋館出版社
 - 単元縦断×教科横断 主体的な学びを引き出す9つのステップ
2020年9月10日 木村明憲 さくら社
 - 「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引ー学ぶ意欲がぐんぐん伸びる評価のしかけ
2020年5月 田中 博之 教育開発研究所
 - ICT活用「みんなで研修」プログラム①～⑧
北海道教育委員会 ICT教育推進局 ICT教育推進課
 - 教職課程における教師のICT活用指導力充実に向けた取組について
令和2年10月5日 文部科学省
 - 鳥取県学校教育情報化推進計画～これからの社会を主体的に生き、社会に対応する資質・能力をもった
人材の育成 令和3年2月 鳥取県教育委員会
 - 教育の情報化に関する手引き 令和元年12月 文部科学省
 - 21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために 平成27年3月 文部科学省
 - ICTを活用した指導方法（1人1台の情報端末・電子黒板・無線LAN等）～学びのイノベーション事
業実証研究報告書より～ 文部科学省生涯学習制作局情報教育課

研究協力員

飯 田 ユ ミ (苫前町立苫前小学校)

坂 本 千 恵 (天塩町立天塩小学校)

柳 谷 武 志 (遠別町立遠別中学校)

山 形 大 介 (増毛町立増毛中学校)

留萌管内教育研究所

所 長 村 元 隆 一 (留萌市立港北小学校)

主任研究員 渡 辺 心 (増毛町立増毛小学校)

研 究 員 中 村 泰 広 (留萌市立潮静小学校)

滝 本 有 香 (留萌市立留萌小学校)

大 石 晴 之 (留萌市立港南中学校)

野々村 光 史 (小平町立小平中学校)

佐 藤 豪 (留萌市立緑丘小学校)

靱 山 朋 久 (留萌市立東光小学校)

平 山 由 美 (留萌市立留萌中学校)

事 務 員 按 田 由 香



あとがき



今年度は、昨年度の反省から、副題の「ICTの積極的な活用」を、より子どもたちの可能性を引き出すため「ICTの効果的な活用」に変更し、今年度の重点に設定しながら研究を進めてまいりました。ICTを積極的に使うだけでなく「何のためにICTを活用するのか」「その場面でICTを活用することでどのような効果が得られるのか」といったICT活用のねらいを明確にした上で今までの実践とICTの強み・特性を活かしたICTの活用のベストミックスを目指し、3か年継続研究の深化を図ってまいりました。

この度、本研究の成果と課題を『研究紀要第28号』を発刊いたします。

本紀要について、学校における校内研究・研修はもとより個人研究や日常実践などに広く活用していただくとともに、多くの皆様のご批正、ご指導をいただけましたら幸いに存じます。

来年度は、本年度の成果と課題を踏まえた上で、3年次の研究に取り組み、留萌管内の全ての子どもたちの可能性を引き出すための成果を多く得られるよう努力してまいります。今後も当研究所に対しまして、変わらぬご指導とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

令和5年3月

研究紀要 第28号

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた実践的研究 ～育成すべき資質・能力を明確にした学習デザインと、ICTの効果的な活用を通して～

発行日	令和5年3月
発行所	留萌管内教育研究所 〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地 Tel/Fax (0164) 42-2635 (直) E-Mail ruken@educet.plala.or.jp U R L http://ruken.hs.plala.or.jp
発行者	所長 村 元 隆 一
印刷所	白鷗印刷株式会社 〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20 Tel (0164) 42-1111

